ANNUAL REPORT 2025

事業報告書



FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

Kitakyushu Foundation for the
Advancement of Industry, Science and Technology
FAIS

はじめに

公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS（フェイス））は、2001年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市（学研都市）を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界との連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動しています。

現在、学研都市には、北九州市立大学国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科、九州工業大学大学院生命体工学研究科、早稲田大学大学院情報生産システム研究科、福岡大学大学院工学研究科の1学部4大学院、そのほかに13の研究機関や60を超える企業等が集積し、研究開発や人材育成等が進められています。

こうした中、FAISは学研都市の指定管理者として共同利用施設等の適切な管理運営を行うとともに、産学連携による研究開発の推進や地域企業の経営支援に取り組んでいます。

2025年度は、前年度から引き続き、半導体、次世代自動車、ロボット、AI、GX（グリーントランスフォーメーション）等、今後の地域産業をけん引する未来産業分野における人材育成や研究開発を支援し、産業技術創出の基盤づくりを推進するとともに、ロボット・DX推進センターや中小企業支援センターを通じて地域企業の生産性向上や経営課題解決に向けて支援を行いました。

また、地域DX（デジタル技術を活用した新たな地域経済づくり）の推進に向けた地域企業等による自律的な活動を支援するため、新たに地域内でのデジタル化・DX推進の機運を高める取り組みを開始しました。

さらに、「地域に開かれた学研都市づくり」を目指し、「ひびきの祭」や「デジタルクリエイター教室」等のイベントを通じて地域との交流、連携を深めるほか、国内外のサイエンスパーク等との交流や首都圏等における情報発信を推進し、学研都市の機能強化に努めています。

2025年2月には、北九州市において、学研都市をバージョンアップする新たな戦略『G-CITY 戦略』が策定されました。この戦略は、「GREEN（環境）」「GLOBAL（国際性）」「GRID（つながり）」「GAKKEN（学研）」の4つのGを軸に、世界を牽引する新たなイノベーションを創出する拠点（G-CITY）を目指すものです。

FAISはこのビジョンの実現に向けて、学研都市の「知」の集積をさらに進め、北九州地域の産業競争力強化と持続可能な未来づくりに貢献してまいります。



目　次

G-CITY戦略 …… 1

公益財団法人 北九州産業学術推進機構について …… 3

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要 …… 5

学研都市の進出大学、研究機関、企業および産学連携施設 …… 7

アジアの学術研究拠点の形成 …… 11

産学連携の推進

産学連携の取り組み（全体フロー）/ 情報収集・発信、産学交流の促進 …… 14

研究開発支援 …… 16

研究成果の特許化と技術移転《北九州TLOの運営》 …… 19

学研都市を中心としたGXの推進《北九州GX推進コンソーシアムの運営》 …… 20

技術拠点化の推進 …… 21

中小企業へのロボット導入支援、DX推進 …… 25

中小企業・ベンチャー企業への総合的支援

中小企業の総合的支援 …… 31

財団運営

評議員および役員名簿 / 決算資料 …… 33



G-CITY戦略

（新・北九州学術研究都市戦略）

G-CITY戦略は、北九州学術研究都市これからを「発展期」として、大学の「知」連続して新たなイノベーションを創出して周辺エリアを含むまち全体の魅力向上など

※「G-CITY」＝GREEN（グリーントランスフォーメーション）/

1 稼げる



施策案

- 重点分野（半導体・次世代自動車等）への集中投資
- 国内外から資金と人材を呼びこむ世界トップレベルの研究者の招聘
- 文理融合リベラルアーツ教育

2 つながる



施策案

- 新たな産学連携施設や半導体をはじめ研究施設の整備、大学設備の共有化
- 産業界のニーズと大学の研究の橋渡しを担う専門人材の登用
- FAISが行っている産学連携についての事業手法、経営手法の大幅な見直し

3 集ま



施策案

- 民間による開発も含検討
- 半導体など先端企業誘致



北九州学術研究都市

北九州学術研究都市は、2001年に開設された「アジアに開かれた学術研究拠点」です。
新産業の創出や技術の高度化を目指し、理工系の大学・研究機関・企業が、国内で唯一、同一キャンパスに集まっています。
現在は、4大学、13研究機関、57企業に約3,500人が集い、「環境」や「情報」を中心に、活発な教育・研究が行われています。

開設からこれまでの24年間を「創成期」、「成長期」と捉え、
と先端産業の「技術」が融合し、
いくために必要な産学連携の機能やシステム、
総合的な見地から、今後の取組みの方向性を示すものです。

GLOBAL（世界中）/GRID（つながる）/GAKKEN（学研）

国や県・民間企業との協働

- 特区制度の活用など、規制緩和、税制等の国や県に対する積極的な提案
- 民間投資や民間活力の導入（PFI・PPP）などマネタイズを徹底した運営

る



めた産業用地創出の

・研究機関の戦略的な

4 魅力あふれる



施策案

- 学術研究都市全体のまちづくりを担うアーバンデザインセンターの創設
- 自動運転など先端技術の社会実装

5 世界を巻き込む



施策案

- キャンパスの公用語を日本語と英語とするなど、国境を越えて学べる環境づくり
- 多言語ホームページの充実や国際学会・展示会の誘致など海外への情報発信強化

● 知の集積（令和8年8月時点）

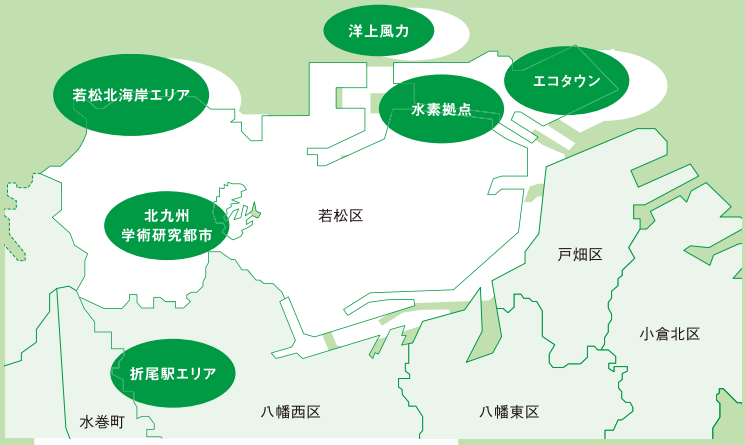
4大学　13研究機関　61企業

学生・教員・企業 約3,600名

● 周辺人口の増加

H13年
約1,400人 → R6年 **約12,000人**

● G-CITY戦略 エリア図 折尾駅～学術研究都市～若松北海岸エリア



● G-CITY 目指す姿（令和7年2月発表）

学術研究都市の大学が獲得した外部研究資金（国・民間資金の計）
5年後 **50億円**

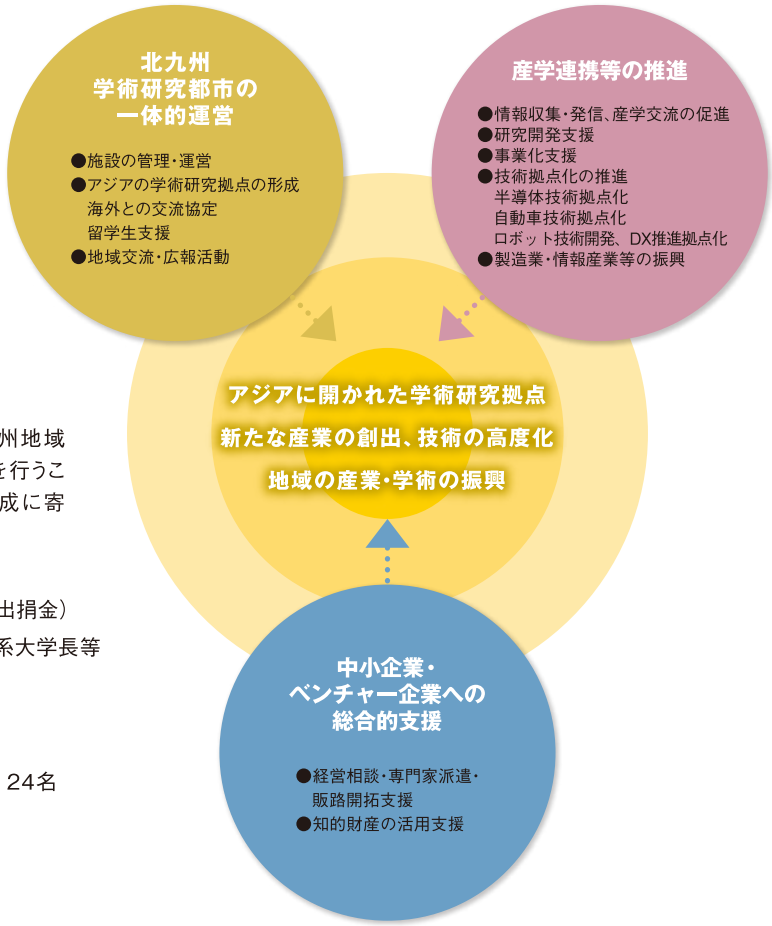
学術研究都市発のスタートアップ起業社数
10年間 **30社**

学術研究都市への誘致件数
10年間 **200件**

公益財団法人 北九州産業学術推進機構

フェイス
FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology



■ 基本理念
公益財団法人北九州産業学術推進機構（FAIS）は北九州地域における産学官連携による研究開発や学術研究の推進等を行うことで、産業技術の高度化や活力ある地域企業群の創出・育成に寄与することを目指しています。

■ 理事長　松永　守央

■ 基本財産　2億8,550万円（北九州市及び民間企業からの出捐金）

■ 役員等構成　［学界］学研都市参画大学副学長 市内理工系大学長等
［産業界］商工会議所等経済団体
［行政］北九州市、福岡県

■ 職員数　72名（令和8年5月1日現在）、市派遣：12名
民間出身等：36名（うち出向11名）、事務嘱託等：24名

■ 令和6年度事業費（支出決算額）　20億700万円

▶ 事務局

総務部

北九州学術研究都市内にある共同利用施設の管理･運営を行うとともに、進出大学間の連携･交流を促進し、学研都市の一体的な運営を行っています。

また、九州ヒューマンメディア創造センタービル（八幡東区東田1-5-7）を設置・運営しています。

▶ 産学連携センター

産学連携部

北九州学術研究都市を中心とする、産学連携ネットワークの形成や新規プロジェクトの創出･運営、新規事業展開の促進によって、未来産業分野の集積や新ビジネスの創出を進めています。

◎産学連携のコーディネート　◎北九州学術研究都市の研究シーズの発信　◎産学交流の場の提供
◎産学共同研究プロジェクトの企画推進、研究成果の事業化支援　◎産学共同研究開発への支援
◎北九州TLOによる技術移転支援　◎コミュニケーションスペースの運営

中小企業等の研究開発の取り組みに対し「Go-Tech事業」など国の研究開発補助金を活用するため、事業管理機関として補助金申請、事業計画の推進、事業管理等を担い、地域企業の“ものづくり競争力強化”や“新たな事業の創出”を支援します。

◎研究開発支援　◎事業化支援　◎人材育成　◎地場企業支援

GX推進部

カーボンニュートラルを成長の機会と捉え、官民GX投資を呼び込み、グリーントランスフォーメーション（GX）をより一層推進していくため、北九州市と連携して、北九州GX推進コンソーシアムを設立し、「稼げるまち」北九州市の実現を目指した取り組みを行っています。

◎最先端の研究開発・社会実装　◎GX関連産業の集積　◎GX人材の育成
◎地域企業のカーボンニュートラルや地域企業の変革に向けた支援

自動車産業支援センター

自動車産業の拠点化を推進するため、産学官連携による人材育成・地場企業支援・研究開発支援を行っています。学研都市3大学が運営する連携大学院の教育プログラムの支援、地場企業へのアドバイザー派遣による教育・生産性向上等の支援、また、企業技術者と大学研究者による研究会活動をベースに共同研究開発を促進します。

◎高度人材育成　◎地場企業支援　◎研究開発支援


▲クルマの未来館ひびきの
（EV車を1台分解展示等）


▲連携大学院
「エンジン分解・組立実演」の様子
（協力:日産自動車九州㈱）

半導体産業支援センター

北九州市域の半導体企業の活性化のため、半導体を一から学べる基礎講座の提供、半導体産業関連企業のマッチング機会の創出、大学との産学連携や企業間連携の支援などの取組みを実施しています。

◎人材育成・人材確保
◎販路の開拓や企業間交流の促進
◎技術・研究開発の促進


▲開発・試作支援設備:半導体試作設備の例
（フォトリソグラフィー工程）


▲人材育成:
半導体製造工程の実習教育の様子
（クリーンルーム）

ロボット・DX推進センター

ロボット・DX推進センターは、地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入やDX（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進をワンストップで支援するための機関です。導入支援、操作体験、人材育成等の取組みを通して、ロボット導入やDX推進に意欲のある地域企業を総合的・一元的に伴走支援します。

◎ワンストップ相談窓口の運営　◎ロボット・IoT機器等の展示・体験



ロボット産業推進部

地域の中小企業へロボット普及を推進するための導入支援事業や人材育成活動を実施しているほか、市内のロボット産業振興を目的とし、北九州ロボットフォーラムの運営や研究開発の支援を行っています。


▲展示ロボット例

◎ロボット技術の研究開発・事業化支援
◎中小企業へのロボット導入支援
◎人材育成

DX推進部

DX推進による地域産業の高度化や、新ビジネス創出を図るため、北九州市DX推進プラットフォームやSIerネットワークの運営を行っています。

また、専門家派遣等による地域企業のDX推進支援や、経営層や現場リーダー向けの人材育成活動も実施しています。

◎専門家派遣等による企業のDX推進支援
◎新ビジネス創出・事業化支援
◎IoT導入による生産性向上支援
◎人材育成

中小企業支援センター

戸畑区中原新町2-1（北九州テクノセンター1階）

中小企業の経営革新・創業をワンストップで支援しています。創業や経営の改善・革新を目指す個人や中小企業の取り組みを支援するため、相談窓口の設置や専門家の派遣、また、知的財産の活用の相談等を受付けています。

◎中小企業の経営課題解決支援　◎中小企業向けの情報発信
◎創業予定者への支援　◎北九州知的財産支援センターの運営


▲北九州テクノセンター

学研都市の一体的運営

北九州学術研究都市の概要

北九州学術研究都市とは

北九州学術研究都市は、「アジアに開かれた学術研究拠点」と「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指し、理工系の国・公・私立大学や研究機関が同一のキャンパスに集積するという独自の試みとして、平成13年4月にオープンしました。現在、進出した大学が北九州学術研究都市の理念を共有して、先端的な科学技術、特に「環境技術」と「情報技術」を中心に活発な教育研究活動を展開しています。

大学等の『知』を活用した
地域の産業・学術の振興

アジアに開かれた学術研究拠点
新たな産業の創出・技術の高度化

新たな技術と
豊かな生活を
創り出す
アジアの
先端産業都市
の実現

北九州学術研究都市の特色

理工系の大学・研究機関、研究開発型企業等を同一のキャンパスに集積

◎国・公・私立大学（1学部4大学院）
北九州市立大学国際環境工学部・
大学院国際環境工学研究科
九州工業大学大学院生命体工学研究科
早稲田大学大学院情報生産システム研究科
福岡大学大学院工学研究科
◎研究機関（13機関）
◎研究開発型企業等（61社）　（令和8年8月1日現在）

進出大学の教育・研究理念の共通化

◎先端的な科学技術分野での教育・研究の展開
◎産学連携の促進
◎起業家精神の育成
◎アジアの学術研究拠点の形成

研究者・教員・学生相互の交流と連携

◎進出大学による共同研究、教員等の交流
◎単位互換の実施
◎進出大学による連携大学院の運営

キャンパスの一体的な運営、施設の共同利用

◎学研都市進出大学の代表者で構成する
「キャンパス運営委員会」による
共同事業の企画・立案
◎図書室、情報処理施設、
利便施設の共同利用

北九州学術研究都市整備事業

◎整備の基本方針

北九州学術研究都市では、周辺の自然環境や都市環境を活かしながら、先端技術に関する教育・研究機関の集積と良好な住宅地の供給を同時に行う「複合的な街づくり」を進めています。

◎開発地域／若松区西部・八幡西区北西部

◎開発総面積／約335ha

◎計画人口／12,000人

◎整備スケジュール

第1期事業（約121ha）

平成7年度～平成18年度

事業主体:（独）都市再生機構

第2期事業（約136ha）

平成14年度～平成30年度

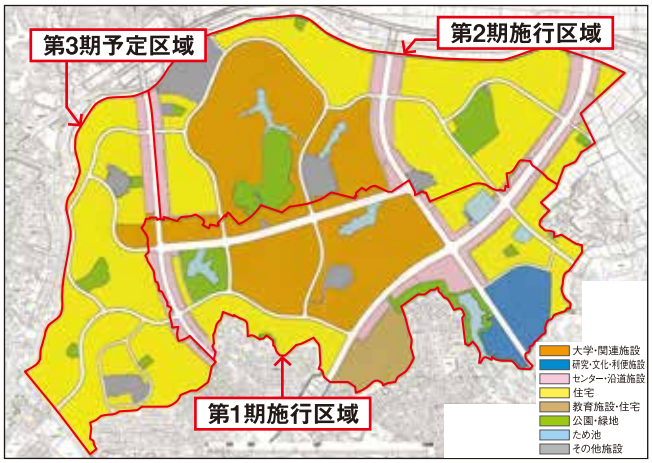
事業主体:北九州市

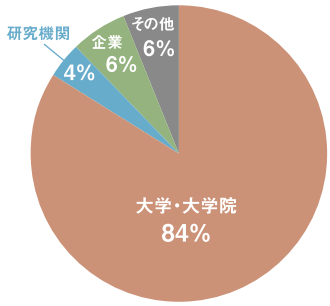
第3期事業（約68ha）

未定

河川事業（約10ha）

【土地利用計画（案）概略図】





北九州学術研究都市の昼間人口

（第1期施行区域 大学・関連施設ゾーン）

約3,600名（令和8年5月1日現在）

学生	2,609名（うち留学生848名）
教員 ※専任教員のみ	171名（うち企業出身者33名）
研究員	164名（うち外国人研究員35名）

北九州学術研究都市整備のあゆみ

平成元年（1989年）		「北九州学術研究都市基本構想」策定
平成8年（1996年）	2月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」(第1期事業)着手
平成12年（2000年）	4月	「九州工業大学大学院生命体工学研究科」開設
平成13年（2001年）	**4月**	**「北九州学術研究都市」オープン**
		「北九州市立大学国際環境工学部」開設
平成14年（2002年）	1月	「共同研究開発センター（産学連携センター2号館）」開設
	4月	「福岡大学大学院工学研究科」開設
		「北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業」（第2期事業）着手
	5月	「情報技術高度化センター（産学連携センター3号館）」開設
平成15年（2003年）	4月	「北九州市立大学大学院国際環境工学研究科」開設
		「早稲田大学大学院情報生産システム研究科」開設
平成17年（2005年）	4月	「事業化支援センター（産学連携センター4号館）」開設
平成18年（2006年）	6月	「北九州学術・研究都市南部土地区画整理事業」（第1期事業）完了
平成20年（2008年）	7月	「技術開発交流センター（産学連携センター5号館）」開設
平成21年（2009年）	4月	「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」開設
平成23年（2011年）		北九州学術研究都市　10周年
平成25年（2013年）	4月	「北九州学術研究都市連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース」開設
	10月	「産業用ロボット導入支援センター」開設
平成29年（2017年）	4月	「北九州市立ひびきの小学校」開校
平成30年（2018年）	6月	「北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業」（第2期事業）完了
令和3年（2021年）		北九州学術研究都市　20周年
令和4年（2022年）	4月	「北九州市ロボット・DX推進センター」 開設
令和7年（2025年）	2月	「G-CITY戦略」 策定

▶ 学研都市の進出大学、研究機関、企業および産学連携施設

1 北九州市立大学

国際環境工学部　■学生定員：1,020名

環境化学工学科　機械システム工学科　情報システム工学科
建築デザイン学科　生命工学科



大学院国際環境工学研究科　■学生定員：346名

環境システム専攻　環境工学専攻　情報工学専攻

「未来を見据え自ら進み、皆で豊かに創造する智の拠点」をテーマに、環境問題の解決と持続可能な社会の実現を目指した教育・研究を行っています。環境問題に対する深い認識（環境マインド）を持ち、社会の持続的発展に貢献できる人材を養成するとともに、企業や自治体、研究機関との共同研究や地域連携を通じて、実社会の課題解決に向けた研究を推進しています。

2 九州工業大学大学院



生命体工学研究科　■学生定員：352名

生命体工学専攻

生命体工学研究科は、生命のしくみを深く理解し、その知見を新しい技術へとつなげることを目指す学際的な研究科です。生命科学を基盤に、工学や情報科学、データサイエンスを融合した教育・研究を展開し、多様化する社会や産業の課題に挑戦しています。柔軟な教育プログラムのもと、幅広い分野で活躍できる創造力豊かな人材の育成を進めています。



3 早稲田大学大学院



情報生産システム研究科　■学生定員：460名

情報生産システム工学専攻

AI・ICTなどの情報アーキテクチャ、開発・材料・製造・計測制御を含む生産システム、半導体・回路・デバイスを中心とする集積システムの各領域を軸に、分野横断的な教育研究を展開しています。企業・研究機関との連携を推進し、国際的な教育研究環境のもと、実社会の課題解決と新たな価値創出に貢献する人材を育成します。

学生数および教員数

（令和8年5月1日現在）

大　学	学　部	修　士	博　士	研究生	特別研究学生	学生数計	教員数
北九州市立大学 国際環境工学部	1,126 (25)	— —	— —	0 (0)	0 (0)	1,126 (25)	87
北九州市立大学 国際環境工学研究科	— —	341 (62)	129 (105)	0 (0)	0 (0)	470 (167)	—
九州工業大学大学院 生命体工学研究科	— —	316 (52)	109 (59)	6 (6)	4 (4)	435 (121)	45
早稲田大学大学院 情報生産システム研究科	— —	430 (399)	131 (123)	7 (7)	4 (3)	572 (532)	38
福岡大学大学院 工学研究科	— —	6 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (3)	1
合　計	1,126 (25)	1,093 (516)	369 (287)	13 (13)	8 (7)	2,609 (848)	171

（　）内は留学生数

4 福岡大学大学院

※産学連携センター内

工学研究科　■学生定員：14名

資源循環・環境工学専攻
エネルギー・環境システム工学専攻

資源・エネルギー制約に対応し、循環型社会の実現を担う高度専門人材の育成を目的としています。資源循環工学、環境化学制御、環境生態制御、地域環境、環境マネジメント、東アジア文化環境の6専修で構成され、文系・理系の教員による文理融合・分野横断型の教育を実施しています。工学研究科に設置されていますが、出身学部・学科を問わず、社会人や留学生を含む多様な学生を広く受け入れています。

A 産学連携センター

産学連携センター 1号館






産・学・官が手を組んで研究を進める中核施設

「公益財団法人福岡県リサイクル総合研究事業化センター」などの研究機関、最先端の研究を行う企業、「福岡大学大学院工学研究科」が入居しています。また、コミュニケーションスペース「HIBIKINO　ODORIVA(ヒビキノオドリバ)」や研修室、会議室なども提供しています。

●貸研究室(31室、オフィス系)
●研修室、会議室(中・小)、特別会議室、特別応接室



F 学術情報センター

図書室
情報処理施設






情報を集積・発信するマルチメディアステーション

学術情報の収集提供(図書室)の機能、情報処理教育施設の機能を持つほか、情報コンテンツ制作をサポートする環境を提供しています。

貸研究室賃料

◎2,000円／㎡・月(共益費別 500円／㎡・月)
(例:研究室50㎡の場合およそ150万円／年 光熱水費等別)

B 共同研究開発センター

産学連携センター 2号館






半導体微細加工技術の研究開発を支援する施設

企業や大学などが半導体製造関連分野の研究開発などを行う施設です。ICやMEMSの試作を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行います。IC試作体験実習の受け入れも可能です。

●貸研究室(7室、オフィス系)
●共同利用のIC・MEMS向け微細加工装置群を設置
(イオン注入装置、電子ビーム描画装置、両面露光装置、高速熱処理装置(RTA)、ダイシングソー、ボンディング装置等)

C 情報技術高度化センター

産学連携センター 3号館






ネットワークや半導体設計に関する研究開発を行う施設

企業や大学などが高度な情報通信技術や半導体設計技術の研究開発などを行う施設です。半導体技術者育成のための研修室や半導体評価・解析を行う機器の開放、研究室の提供などを行います。

●貸研究室(34室、オフィス系・小規模研究室)
●半導体評価・解析を行う機器等を設置

D 事業化支援センター

産学連携センター 4号館






大学発ベンチャー等の研究開発や事業化を支援する施設

オフィス系研究室のほか、機械系と化学系の研究室や小規模ブース単位で使用できる共同研究室を提供しています。

●貸研究室(36室、オフィス系・機械系・化学系)
●会議室(中・小)
●共同研究室(10ブース)
●シェアオフィス

E 技術開発交流センター

産学連携センター 5号館






ロボット、次世代自動車分野の企業支援やDXを推進する施設

ロボット導入や次世代自動車参入のための企業支援、DX(IoTの導入や業務のデジタル化)を推進する施設です。また、学術研究を目的に訪れる方のための宿泊室も提供しています。

●貸研究室(48室、オフィス系・機械系・化学系)
●宿泊室(9室、シングル8室・ツイン1室)　● 会議室(中・小)
●交流室(1室)

※FAISは、北九州市から指定管理者としての指定を受け、産学連携施設の効果的・効率的な管理・運営を行っています。

産学連携施設が充実する北九州学術研究都市には、研究機関および研究開発型企業の進出も進んでいます。また、北九州学術研究都市の大学シーズを活用した起業も活発で、学研都市発ベンチャー企業も14社入居しています。

研究機関

令和８年８月１日現在

	研究機関等の名称	入居場所	研究内容
1	北九州市立大学 環境技術研究所	北九州市立大学	地球環境の変化と地域社会の要請に応えるため、環境エネルギー、バイオマテリアル、情報、ロボット技術等の分野の研究と技術開発を戦略的に推進
2	北九州市立大学 環境技術研究所 ・Green LPG 研究室	事業化支援センター	LPガスの新技術に関する研究
3	北九州市立大学 福田研究室	情報技術高度化センター	マンション木軸材用「接着形成造作用芯材」の事業化に関する研究
4	九州工業大学 超ワイドバンドギャップ・パワーエレクトロニクス研究センター	九州工業大学 および 共同研究開発センター	省エネルギーの推進、電力の高度利用技術、自然エネルギーの活用等、低炭素社会の実現に貢献するパワー半導体を中心とした次世代パワーエレクトロニクス技術の研究
5	九州工業大学 未来社会ロボット実装センター	九州工業大学 および 情報技術高度化センター	○極限環境に対応可能な特殊環境ロボット群の開発・実用化 ○医療・介護ロボットの開発・実用化 ○工場内自動化対応技術の開発・実用化 ○信頼できるロボットの実用化を支える品質保証を可能とするオープンソフトウェアの開発
6	早稲田大学 情報生産システム研究センター	早稲田大学情報生産システム研究センター	自動車エレクトロニクスおよびLSI分野における国際的水準の高度な研究、人材育成
7	福岡大学 産学官連携センター 北九州産学連携推進室	産学連携センター	環境産業に関する企業のニーズ、自治体の政策およびシーズをマッチングさせ、産学官連携による環境産業振興を展開
8	東京科学大学 産学共創機構 北九州オフィス	産学連携センター	産学連携・共同研究の推進、大学・企業・研究機関との共創支援
9	一般社団法人HiBD研究所	産学連携センター および 事業化支援センター	再生可能資源、炭酸ガスを原料とする液体燃料製造の研究開発
10	公益社団法人 無人機研究開発機構	産学連携センター	無人機全般について調査、研究および技術向上についての知識の交換、情報の提供等を行う場となることにより、無人機に関する研究の進歩普及
11	公益財団法人 福岡県リサイクル総合研究事業化センター	産学連携センター	資源循環型社会の構築に向けた、リサイクル技術の開発や社会システムの確立に取り組む産学官民による研究開発および事業化を支援
12	NPO法人運動脳科学研究所	事業化支援センター	小型の脳活動センサーを使用し、運動時の前頭前野の血流量を計測
13	特定非営利活動法人 あそびとまなび研究所	事業化支援センター	竹コンポストを利用した地域における生ごみ減容の最適普及促進の実証研究

進出企業

令和８年８月１日現在

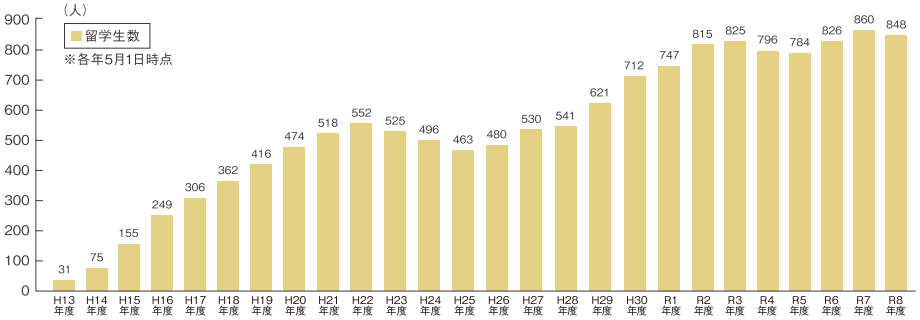
	入居場所		企業名	事業内容
1	産学連携センター		石田特許事務所	特許、及び実用新案・意匠・商標登録の出願手続の代理、特許出願等に関するコンサルティング
2			プラントメイクRISE㈱	焼却炉設備におけるコーティング剤開発、3Dスキャナーによる構造計算ソフトの開発
3			ASTROCEAN㈱	設備の受託開発、エンジニアリングサービスの提供
4			弁護士法人河合法律事務所	最先端の科学技術研究や開発に携わる大学・企業へ、法的リスクのマネジメントおよび戦略的な法務サポート提供
5			シーマ電子	設計・試作・評価・解析・製造などのサービスの提供、開発のサポート
6			日本ベンチャービジネスキャピタル㈱	パワーデバイス実装技術開発、ナノ金属粒子接合材の実用化開発、マイクロメッキ接合技術開発、コンサルタント、技術ライセンス
7	共同研究開発センター		㈱セキュリティ情報研究所	システム開発、システム保守（24時間365日）
8			㈲K2R	触媒反応を利用したラジカル種含有の水の生成装置の研究開発
9			㈱Power Diamond Systems	ダイヤモンド半導体を使用したパワーデバイスの開発
10	情報技術高度化センター	●	（同）数理科学研究所	数理科学に関する研究及び開発事業
11			㈱華仁サービス	外国人留学生の誘致及び就職に関するマーケティング戦略の研究
12			㈱ココプラス	エクソソーム化粧品原料の研究・開発
13			㈱J.A.M. Engineering Institute	次世代ロボット用アクチュエータおよび次世代高精度加工用高速主軸モータの要素技術研究。次世代リニアモータの効率化研究。省エネモータ、宇宙用モータの要素技術研究。
14			SICC GLOBAL㈱	SiCウェーハの結晶性・物性・特性や界面、表面洗浄度などの研究。自社材料のデバイス特性評価
15			ヘッドスプリング㈱	パワー半導体向け信頼性試験装置のショールーム兼テストラボ
16			ACE Solution Co.,Ltd.（筑波科技肢份有限公司）	半導体テスト、評価技術やスマート医療分野での研究開発 テラヘルツ検査など大学研究シーズとの共同研究
17	事業化支援センター	●	㈲ビー	画像処理システムおよびソフトウェアの研究開発
18		●	実研開発㈲	臨床工学教育機材、光伝送生体信号測定装置の開発・販売
19		●	㈱プラテック	Webシステム開発、アカデミックソリューション事業
20			アネーラ税理士	監査業務、各種税務書類の作成、税務代理、税務相談、税務コンサルティング
21			㈱ＡＫシステム	半導体製造装置製作技術等の新産業分野（医療・福祉等分野）への応用研究開発
22			㈱アイシン	画像認識・空間認識、車両制御等の要素技術開発
23		●	アーティックス㈱	IoT、人工知能、ブロックチェーンなどに関する研究開発
24		●	レアメタル技研㈱	リチウム吸着剤の大量合成による事業化
25			KOA㈱	電子部品、センサ素子、センサモジュールに関する情報収集、情報交換ならびに産学共同開発
26			環境エネルギー㈱	バイオジェット燃料の開発・実用化、バイオディーゼル燃料の高品質化
27		●	ひびきの電子㈱	電界共振型生体センシング及びセンシングデータ解析システムの開発
28			㈱ワークス	ワイヤレス給電技術を利用した消化管内自走式カプセル内視鏡の開発
29		●	㈱ロボサイエンス	小型水中ロボット（船底清掃ロボット等）の開発
30			㈱アポロジャパン	スクリーンコードおよび自動運転の基盤技術開発
31			HMコネクト㈱	除菌・抗菌・消臭液の効果検証及び効果持続性のある商品の開発／クリスタル硝子内部にレーザー彫刻した絵柄のLED照明演出装置開発
32		●	ハインツテック㈱	細胞内への物質導入・細胞内物質抽出のための、ナノ構造体を用いたツールの開発・製造、およびそれらを用いた研究開発支援
33			LOVO&Co.	クラウド上の生産設備を利用するスマートファクトリーの構築
34			（同）ノーエン	農業における気象データ活用に関わる研究・開発
35			フォースウェーブ・パートナーズ㈱	ロボットを使った自動化・省力化システムに伴う、ソフトウェアの開発／システムの実証作業
36			㈱On&On	DX技術を活用したオリジナル和菓子の開発
37		●	RoboPlusひびきの㈱	メカトロニクス設計・製造及び販売、コンサルタント業
38			㈱シンコム	半導体関連及びAI事業の受託設計
39			㈱Windy	病院、薬局で使用するソフト開発、自動車工場での作業分析ソフトの開発
40			Japan Quality㈱	半導体製造現場の生産性向上、事業拡大並びに多様化。半導体装置の再生やメンテナンス技術の向上
41			㈱空宙技研	衝撃試験機器の開発、設計、組立及び宇宙機器の設計組立。教育教材の開発
42			㈱豊光社	プリント基板の製造、直流用電流センサ“PICASOR”シリーズの開発、販売、ナノレベル接合技術による、次世代要素技術MARBSの開発
43			先晶㈱	チップシステム設計技術の研究開発を支援し、サプライチェーン、商業化、人材育成・教育において、メモリ、光、RF、電源管理などのCo-Pack分野でスタートアップや大学との連携
44			㈱AIBODネクサス	フィジカルAI実現に向けた半導体垂直統合設計のプロトタイプ研究
45		●	（同）オートケア	介護分野におけるIT・AI技術での業務効率化システムの研究開発・実証介護現場へのDX普及コンサルティング
46			スターマリン㈱（法人化予定）	カメラとAIを活用した海上浮遊物の検知研究
47			㈱金属被膜研究所	半導体製造装置部品や精密金型へ適した無電解ニッケルめっきの開発
48	技術開発交流センター		㈱シキノハイテック	半導体設備の設計／製作／調整、LSI回路設計／レイアウト等
49			吉川工業㈱	RF-IDに関する研究開発事業
50			㈱Ｃ＆Ｇシステムズ	金型設計・加工用CAD／CAMソフトウェア開発
51			シャボン玉石けん㈱	無添加の化粧石けん、家庭用洗浄剤、消火剤などの製造販売
52			㈱トリコ	電気部品の開発・修理
53		●	㈱ＦＩＬＴＯＭ	プラセンタエキス（豚胎盤液）を使った化粧品の開発・製造・販売
54		●	㈱セキュアサイクル	行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発およびセキュリティ事業
55			㈱正興電機製作所	スマート保安に関する技術と脱炭素に向けた再エネソリューション技術の研究開発及び大学・企業連携
56			日本酸素ATI㈱	ドライアイス洗浄装置や金属3Dプリンタの使用方法に関する研究開発
57			プレミアエンジニアリング㈱	協働ロボット（アーム型、自動搬送車AMR型）を使ったシステム開発、エンドユーザーがロボットを操作できる迄のトレーニング等
58			東芝ナノアナリシス㈱	半導体メモリの解析・評価、パワーデバイス等の半導体の解析・評価
59			㈱SmartOne	人協働ロボットを使用した自動化システムパッケージの開発、システム構築に必要なハード、ソフト開発・商品化
60			第一施設工業㈱	ロボット等保全を核に産学連携でFA事業を研究開発。新たな生産性向上支援を提供します。
61			エイム㈱	次世代エンジニアの育成及び電気自動車の実証実験、そのデータを活用した研究開発等

※●印は学研発ベンチャー企業（13 社）

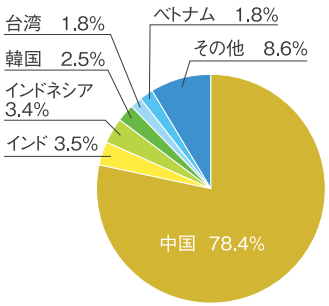
▶ アジアの学術研究拠点の形成

北九州学術研究都市の留学生

【留学生数の推移】



【出身国内訳（31か国）】



留学生の支援と優秀なグローバル人材の育成

日本語講座の実施



学研都市の留学生を対象に、日本語学習未経験者から中級レベルまでの学習者を5段階に区分し、春期および秋期の年2回、日本語講座を開講しました。

●受講者数　春期／61名　秋期／70名

留学生への宿舎の提供・奨学金の給付

総戸数200戸の留学生宿舎を提供するとともに、学研都市の大学院に在籍する留学生を対象に、「北九州学術研究都市奨学金」（1人年間60万円）を給付しました。

●令和7年度受給者数：20名

冠奨学金の給付



高度人材として国内外で活躍が期待される学研都市の留学生と地域企業等のネットワーク構築支援を目的として創設され、千代田計装株式会社から寄付金（総額100万円）をいただき奨学金を給付しました。

●令和7年度受給者数：5名

留学生交流事業への助成

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人等が運営する事業に対して助成を行いました。

就職支援プログラム事業の運営

学研都市の修士留学生を対象に、日本企業への就職を支援する「FAIS留学生就職支援プログラム」事業を実施しました。

●受講生　35名
（北九州市立大学5名、
九州工業大学1名、
早稲田大学29名）



●プログラム
・就職支援講座（就活セミナー、模擬面接セミナー、
就活カウンセリング、身だしなみ・マナー講座 等）
・就活日本語講座

インターンシップ事業



学研都市の留学生に北九州市内の企業を知ってもらうことを目的として、市内の企業3社を見学し、企業担当者と留学生で意見交換しました。

●訪問企業
日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
（※就職支援プログラム内で実施）
株式会社GMOインターネットグループ
株式会社安川電機

地域の大学との交流

学研都市の留学生に日本人学生との交流の機会を設けるため、西南女学院大学英語学科および茶道部の協力により「お茶体験」「日本文化体験（年賀状作成）」を開催しました。



海外との交流促進

各大学における海外大学との交流協定

【北九州市立大学国際環境工学部・同研究科・
環境技術研究所（42機関）】
インド：インド工科大学ボンベイ校、フランス：パリ・シテ大学、中国：大連理工大学、
ベトナム：ベトナム国家大学ハノイ校、タイ：タマサート大学　他37機関

【九州工業大学大学院生命体工学研究科（8機関）】
台湾：国立台湾大学工学院
フランス：ボルドー工科大学ENSEIRB-MATMECA大学院
トルコ：コンヤ工業大学工学自然科学部　他5機関

【早稲田大学大学院情報生産システム研究科（59機関）】
中国：復旦大学、台湾：国立台湾大学、韓国：ソウル大学校、
タイ：チュラロンコン大学、フィリピン：アテネオ・デ・マニラ大学　他54機関
（令和8年5月現在）

海外の研究機関等との交流協定

FAISは、台湾のサイエンスパークや中国の上海交通大学および韓国の韓国科学技術院（KAIST）・釜山大学校と交流協定を締結しています。

●平成16年　台湾　新竹サイエンスパーク、南部サイエンスパークとの交流協定締結
●平成19年　中国　上海交通大学との交流協定締結
●平成21年　台湾　中部サイエンスパークとの交流協定締結
●平成27年　韓国　韓国科学技術院（KAIST）、釜山大学校との交流協定締結

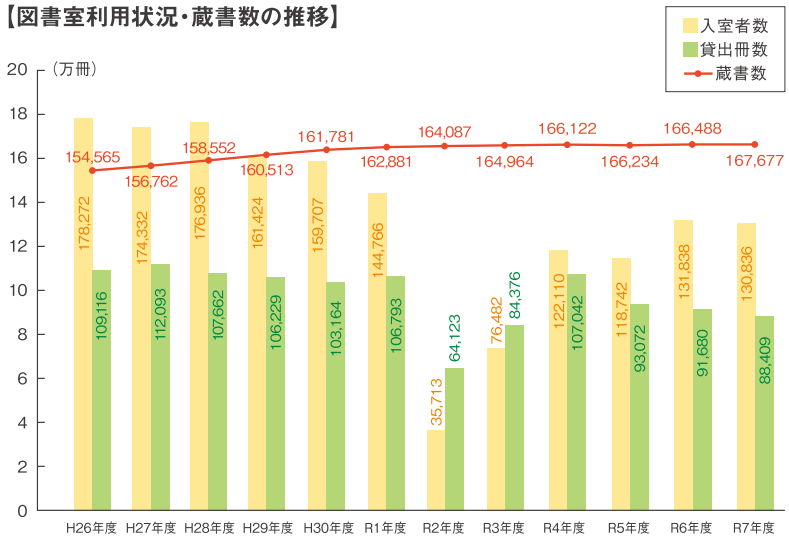
市民も利用できる共同利用施設の運営

学術情報施設

市立図書館とオンラインで結ばれ、他の市立図書館と同様に利用できる一般図書室と、北九州学術研究都市に進出している大学の専門図書を集中配架する専門図書室を運営しています。

また、パソコンを配備した講義室や、遠隔地とリアルタイムでテレビ（Web）会議ができる遠隔講義室等を備えています。

【図書室利用状況・蔵書数の推移】




▲学術情報センター


▲図書室

コンベンション・体育施設

会 議 場： 大型映像装置や同時通訳設備を備えた460席の会議用ホールで、講演会やセミナー、学会や国際会議等に利用できます。懇親会や展示会等に活用できるイベントホールを併設しています。

会 議 室： 数人から200人規模まで、ニーズに応じた様々な形態の会議や研修、地域活動等に利用できます。

体育施設： 大学の授業やサークル活動の時間以外は、地域や有志クラブ等の活動に利用できます（体育館・運動場・テニスコート）。


▲会議場（外観）


▲会議場（メインホール）


▲会議場（イベントホール）


▲会議室


▲研修室


▲体育館


▲運動場


▲テニスコート

コミュニケーションスペースの設置・運営

HIBIKINO ODORIVA（ヒビキノ オドリバ）

HIBIKINO ODORIVA（ヒビキノ オドリバ）は、北九州学術研究都市に集う研究者・学生・留学生・企業等が互いに交流し共創していくコミュニケーションスペースとして、令和5年10月13日にオープンしました。

「（階段の）踊り場」のような、人々が気軽に交流する「交差点」であり、下記の3つのコンセプトを軸に利用者の交流を促進しています。

＜コンセプト＞

①グローバルなコミュニティの形成
②分野を超えた学びと研究の促進
③チャレンジ精神やリーダーシップの醸成

令和7年度会員登録者数：317名　　令和7年度利用者数：9,539名



地域交流イベントの開催

第21回 北九州学術研究都市ひびきの祭

地域に開かれた学研都市づくりを進めるため、地域の方や子どもたちに科学やモノづくりへの興味を喚起する場を提供しました。

日　程：令和7年11月9日(日)
会　場：北九州学術研究都市
内　容：・スペースLABO川村館長のサイエンスショー
・探検!ヘルスサイエンス(産業医科大学)
・伝説のカラダ大将軍(産業医科大学)
・後だしジャンケン、じゃんけんぽん(早稲田大学)
・九工大のロボット大集合!(九州工業大学)
・発泡スチロールのリサイクルを体験しよう(北九州市立大学)
・DNAを取り出そう!(北九州市立大学、明治学園中学高等学校)
・シャボン玉スーパーチャレンジ
(北九州市立大学、シャボン玉石けん㈱)
・ごみの研究所をのぞいてみよう!ウェブ見学ツアー(福岡大学)
・ものづくり教室(トヨタ自動車九州㈱ものづくりサークル)
・プログラミング教室(㈱ハピクロ)
・留学生屋台村(学研ボランティアの会)
・見てみよう、遊んでみよう!はたらくロボット!!
・Springin'とKAGURA体験会"つくるチカラ"が未来をつくる
・「クルマの未来館ひびきの」一般公開!
・半導体ってなに?体験道場
～クリーンルームの作業は、貴重な体験～
・学研おもしろ探検クイズラリー
来 場 者：5,900人






図書室で推理ゲーム「ぬすまれた本を探せ!」

学術研究都市内の学生や近隣の住民の方々に、もっと図書館に親しんでいただくことを目的として開催しました。

日　程：令和７年11月９日(日)
※ひびきの祭と同時開催
会　場：学術情報センター1階および図書室
内　容：問題用紙のヒントをもとに図書室の中を歩きながら、クイズに答え、怪盗にぬすまれた本を探し出すゲームを開催しました。
来 場 者：475人










第29回サイエンスカフェ「色について考えよう～なぜ色ができるのか～」

地域住民が科学や科学者をより身近な存在に感じ、科学技術に親しみと楽しさを感じてもらえる科学教室を開催しました。

日　程：令和7年8月3日(日)
会　場：産学連携センター
講　師：馬渡和真氏(早稲田大学大学院情報生産システム研究科教授)
内　容：小学4年生～中学生を対象に、光についての解説と、3色のフィルムを使って色の変化を観察しました。
参 加 者：34人




デジタルクリエイター教室

市内の小学校3校(近隣校2校、公募校1校)の5年生を対象に、学校のタブレット端末を使って自分で映像制作ができるよう、デジタルの基本スキルを楽しく学び、実践する教室を開催しました。

日　程：令和7年10月～12月(延べ6日間)
会　場：学術情報センター遠隔講義室1 他
来 場 者：409人






講演会「マンガやアニメで探そう!自由研究のテーマ!!」

学術研究都市内の学生や近隣の住民の方々に、科学への興味を広げてもらうことを目的として開催しました。

日　程：令和7年7月12日（土）
会　場：学術情報センター 遠隔講義室1
講　師：柳田 理科雄氏
内　容：マンガやアニメの世界を科学で真剣に考察した内容で、実験を交え夏休みの宿題に役立つ講演会を開催しました。
来 場 者：87人









広報活動

積極的な情報発信

北九州学術研究都市の取り組みや成果を、さまざまな機会や手法を活用して、国内外への情報発信を行っています。

令和7年度報道件数
149件
【内訳】
新聞　94件
テレビ･WEB等　54件
雑誌等　1件



国内外研究者等の受け入れ

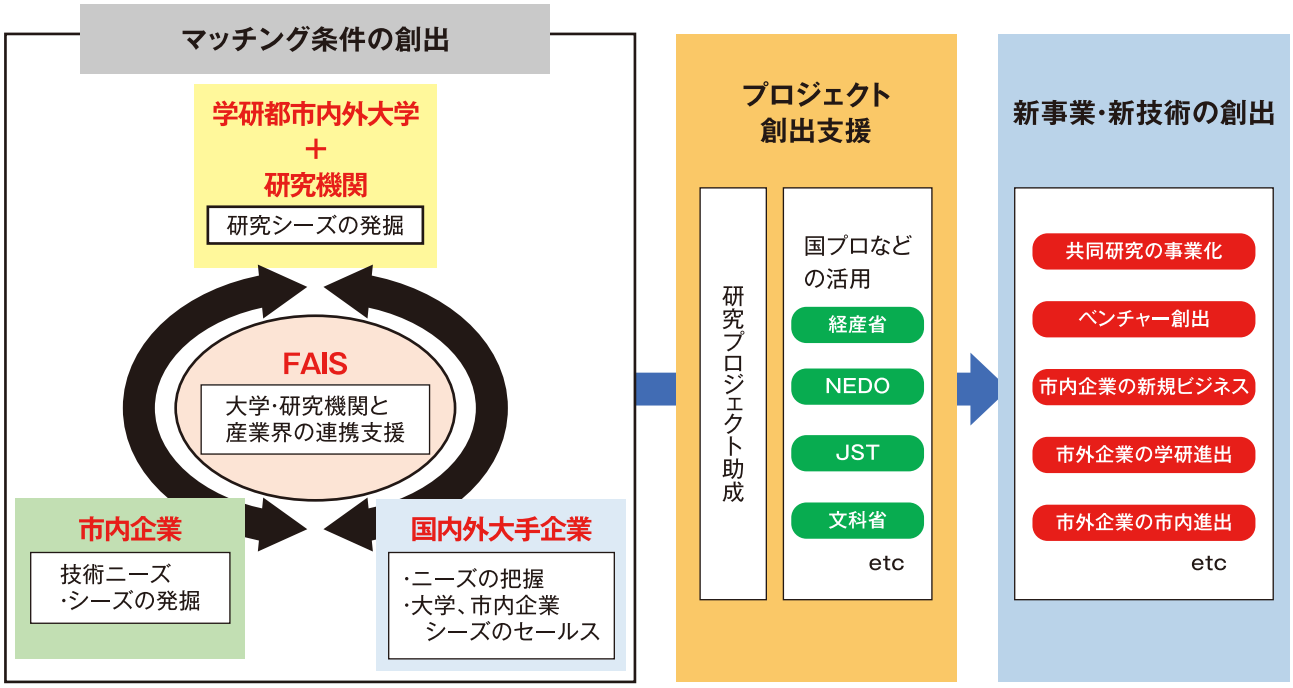
北九州学術研究都市に来訪した多数の国内外研究者等に対し、学術研究都市の設立目的や個別施設の概要、産学連携活動の取り組みや成果等を紹介しています。

令和7年度
視察者数
169回　1,299人



産学連携の推進

▶ 産学連携の取り組み（全体フロー）



▶ 情報収集・発信、産学交流の促進

学研都市内研究者の情報提供

●FAISのHP上に「研究者情報検索システム」を構築
　技術キーワードや課題、所属、研究者名等で検索可能

●検索システムの情報を基に「北九州学術研究都市の研究者情報」（リーフレット）を作成



研究者情報
検索システム
TOP画面



研究者情報
（リーフレット）

毎年、市内外の
企業等に配布
【令和7年度配布数】
2,500部

メールマガジンによる情報発信

●「産学連携センターNews」を配信（平成16年9月～）
　セミナー情報や産学連携に関するトピックを随時掲載

◎配信先　約7,400件
◎配信件数　通算1,200通配信（令和8年3月31日現在）
◎毎週月曜日配信

産学交流の場

産学交流サロン（ひびきのサロン）の開催

北九州学術研究都市から新たな産学連携の動きが次々と生まれてくることを目指し、産学官から複数の研究者等が特定の技術テーマについて自由に意見を交換する交流の場「産学交流サロン」を開催しています。平成14年度のスタートから令和7年度までに219回開催し、のべ20,687人の方が参加しています。

【令和7年度実績】

回	テーマ・講座名	発表者	参加者数
第218回 10月1日	「研究DXを加速するデータ知識化技術」 ～ひびきのAI社会実装研究会の取組紹介～	国立研究開発法人 理化学研究所 小林　紀郎 氏	30名
第219回 10月3日	北九州市・FAISサプライヤー応援隊事業 「専門技術者育成カリキュラム」	公益財団法人神奈川産業振興センター 柳原　秀基 氏 他1名	42名
第220回 10月8日	「産業界で活躍する技術系人材に求められるものとは」 ～第12回カーロボAI連携大学院交流会～	東芝デバイス&ストレージ株式会社 岡野　資睦 氏　他2名	60名
第221回 11月28日	合同企画　第19回IPS海外連携シンポジウム （ISIPS2025）	九州大学 教授　内田　誠一 氏 他	200名
第222回 11月14日	第65回北九州医工学術者会議 「次世代研究分野の醸成に向けた医・歯・工の連携」	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 前山　日向子 氏 他6名	24名
合　計			356名

※法人名は、サロン開催時の名称です。

産学共同による研究会の企画運営

令和7年度研究会活動

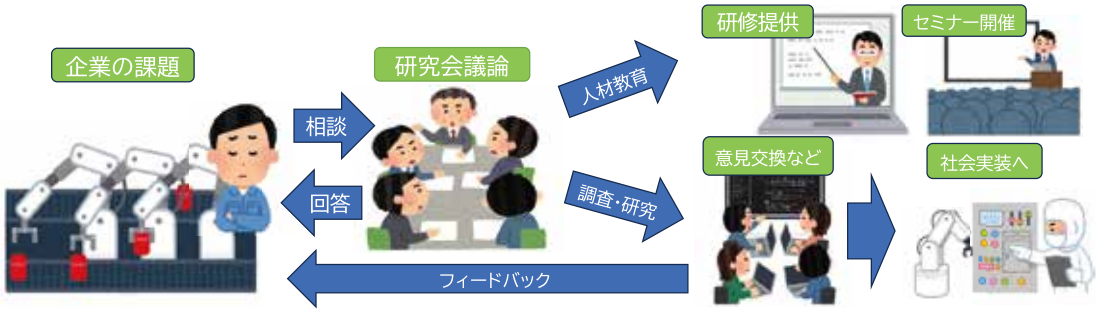
先端的で波及効果が高いと予想される技術分野に関するテーマや、事業化の可能性の高いテーマについて、産学共同による研究会を企画・運営し、研究開発につなげる活動を進めています。

研究会の活動による国等プロジェクトの採択を目指しています。

令和7年度は「ひびきのAI社会実装研究会」など5つの研究会を運営しました。

ひびきのAI社会実装研究会

企業ニーズと学研都市研究者の技術シーズのコーディネートを行い、主にAIを活用した「ものづくり」への貢献を中心に様々なテーマについて研究活動を実施しています。特に、人との親和性の高いシステム構築に貢献する基盤技術（スパースモデリング）や、エッジAIの最適化のためにAI処理に必要な電力を大幅に抑えつつ、推論性能と高速学習を両立できる可能性を秘めているレザバーコンピューティングの研究等、社会実装支援を行っています。



▶ 研究開発支援

企業・大学等が実施する研究開発に対する支援

大学等の研究機関、市内企業が実施する研究開発のために補助金を交付し、新技術・新製品の開発を支援しています。

FAISの研究開発に対する支援制度（令和7年度）

◎研究開発プロジェクト支援

名　称	概　要	対象者	補助額（補助率）	補助期間
シーズ創出・ 実用化検証事業	産業振興の促進に資する分野に関し、実用化を目指すシーズを見出し、その可能性を検証するための研究開発に対して補助金を交付	市内大学等 (1)若手・チャレンジ枠 (2)一般枠	200万円以内(1/1)	単年度
実用化 研究開発事業	産業振興の促進に資する分野において、技術の高度化・製品の実用化並びに新産業の創出を目指す研究開発に対して補助金を交付	市内企業等	中小企業 500万円以内(2/3) 中小企業以外 500万円以内(1/2)	単年度
未来産業 イノベーション 創出事業	半導体、自動車等今後成長が見込まれる重点分野において、実用化が見込まれる新技術・新製品の研究開発に対して補助金を交付	(1)市内大学等(単独) (2)市内大学等(企業等との連携) (3)市内企業(大学等との連携) (4)市外企業(市内大学等との連携)	単独300万円以内 連携1,000万円以内 (大学等1/1、中小企業2/3、 中小企業以外1/2)	単年度
衛星データ 利活用実証・ 新技術開発事業 宇宙関連機器 新技術開発事業	今後成長が見込まれる宇宙関連分野の衛星データ(観測・測定・通信の各データ)の利活用モデルの実証や新たな技術開発に対して補助金を交付 ロケット、人工衛星、地上施設等の宇宙に関する機器やその材料又はこれらの機器の制御・管制にかかるソフトウエア等に関する新技術開発に対して補助金を交付	(1)市内大学等(単独) (2)市内大学等 (市内大学等や企業等との連携) (3)市内企業(単独) (4)市内企業 (市内大学等や企業等との連携) (5)市外企業 (市内大学等や企業等との連携)	大学等単独、大学等連携、 企業等単独:200万円 大学等と企業等の連携、 企業等の連携:500万円	単年度

令和7年度採択実績
【シーズ創出・実用性検証事業】11件

	採択テーマ名	申請大学等
若手・チャレンジ枠	AI連携高分解能テラヘルツ波放射顕微鏡による半導体非破壊不良識別システムの開発	早稲田大学
	ホームサービスロボット市場の拡大を目標とした住宅の物理規格の策定に向けた研究 ー団地住戸におけるホームサービスロボットの物理支障の要件解明ー	九州工業大学
	よりよい水素社会の実現を目指した革新的多孔質ナノ孔結晶の工業利用	北九州市立大学
	MR(mixed reality)技術を用いた獣医療従事者向け放射線防護教育支援システムの実用化	産業医科大学
	次世代高耐電圧パワーモジュールのための絶縁破壊強度予測モデルの研究	九州工業大学
	Superworm driven plastic degradation and frass utilization as a low energy bioconversion platform for the future of waste（低炭素社会に向けた低エネルギー生物変換プラットフォーム:スーパーワームによるプラスチック分解と糞尿利用）	九州工業大学
一般枠	すい臓がんの早期診断のための電気化学的miRNA検出法の確立	九州工業大学
	光応答型気孔制御とナノキャリア技術を融合したペプチドバイオスティミュラント剤の革新的導入法の開発	九州工業大学
	難環境を突破する超遠隔キャスティングマニピュレーション技術の研究開発	九州工業大学
	細胞老化に着目した関節包線維化の病態解明と関節拘縮予防治療法の開発	産業医科大学
	雨水から純水を製造する孔拡散分離型省エネ流体分離モジュールの開発	北九州高専

【実用化研究開発事業】2件

採択テーマ名	申請企業等
ハイブリッド幹細胞の開発と再生医療応用	ハインツテック㈱
生プラセンタなど生素材に含まれる活性成分の安定化技術開発	㈱FILTOM

【未来産業イノベーション創出事業】3件

採択テーマ名	申請企業等
大温度差から大規模発電を実現する温度差発電デバイスの技術基盤構築	北九州高専
ダイヤモンド表面伝導メカニズムによる次世代パワー半導体の実現	九州工業大学
既存車両を無改造で操作可能な4肢ロボット技術と多分野展開に向けた仮想検証基盤の開発	早稲田大学

【衛星データ利活用実証・新技術開発事業、宇宙関連機器新技術開発事業】5件

採択テーマ名	申請企業等
超小型衛星用デジタルフラックスゲート磁気センサの宇宙実証に向けたエンジニアリングモデル開発【機器】	九州工業大学
北九州における革新的な宇宙通信機器の製造に向けた要素技術の研究【機器】	九州工業大学
不均一な熱負荷に対応する沸騰冷却用コールドプレートの研究開発【機器】	兵庫県立大学 北九州市立大学
インドネシアにおける衛星光学データを活用した熱・CO_2・植生変化のセンシングによる泥炭森林火災の早期検知、消火判定、森林再生の評価法の開発【データ】	北九州市立大学
誰にでも扱える宇宙機用衝撃試験装置の開発【機器】	㈱空宙技研

※【機器】：宇宙関連機器、【データ】：衛星データ実証

◎旭興産グループ研究支援プログラム

名　称	概　要	対象者	補助額（補助率）	助成期間
若手研究者 ステップアップ支援	旭興産グループの支援を得て、新しい時代に予見される課題の解決につながるテクノロジーの研究（斬新、独創的かつ挑戦的で将来の発展が見込まれるものに限る）に対し補助金を交付	北九州市地域に設置された大学等に所属する研究者で、かつ、 ア 39歳以下 イ 博士学位取得後8年未満のいずれかを満たす者	Aタイプ　Bタイプ 初年度　500万円　200万円 ２年度　300万円　200万円 ３年度　200万円　100万円 計　1,000万円　500万円 ※研究開発予算に応じて、A・Bタイプを選択（1/1）	3年以内

令和7年度採択実績
【若手研究者ステップアップ支援】2件

採択テーマ名	申請大学等
ニューロンとアストロサイトの相互作用を電気的に解析可能な両面微小電極アレイデバイスの開発【Aタイプ】	九州工業大学
革新的多孔質ナノ孔膜型反応器による高効率CO_2資源化プロセスの開発【Aタイプ】	北九州市立大学

FAIS助成制度の主な成果事例（令和4年度採択テーマより）

【研究テーマ】北九州産の希少な完全非加熱ミルクセラミド原液の量産化開発
【申請企業】株式会社FILTOM

市内の牧場である濱崎デイリーファームやアレルギーテスト法開発を担当した北九州市立大学などと連携し、牛乳を使用した化粧品用新素材「生ミルクセラミド」の開発に世界で初めて成功しました。また「生ミルクセラミド」を配合した化粧品も同時に開発し、R5年4月から販売を開始しています。



生ミルクセラミド（左）と
一般的な加熱ミルクセラミド（右）



濱崎デイリーファーム



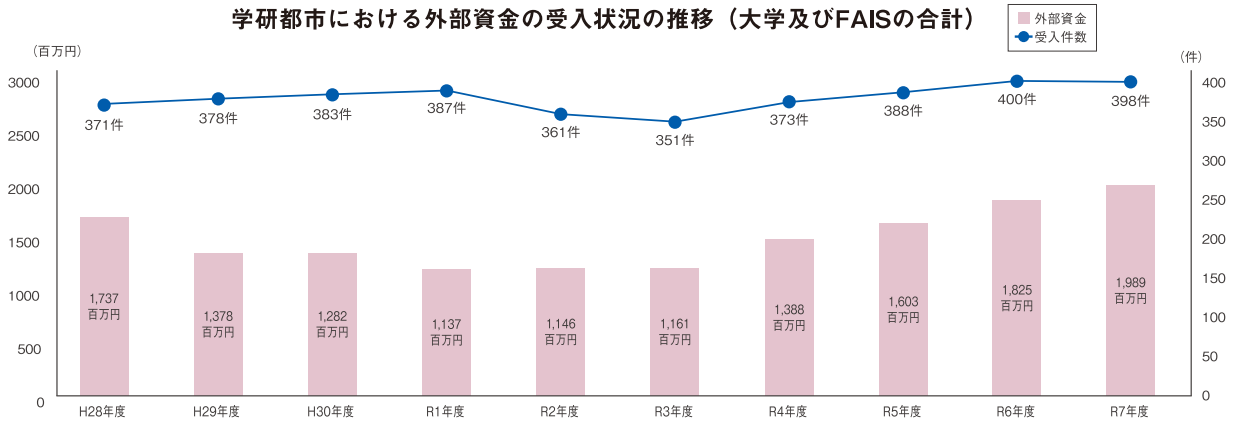
生ミルクセラミド
m9シリーズ（化粧品）

国等の資金を活用した研究開発プロジェクトの推進

「成長型中小企業等研究開発支援事業（経済産業省）」等、国等の資金を活用した産学連携の研究開発プロジェクトを積極的に実施しています。

令和7年度は、各大学における受託研究等と合わせて398件のプロジェクトに取り組みました。

外部資金の積極的な獲得



近年の主な研究開発プロジェクト

経済産業省	
大学と知的財産と生成AIを組み合わせた地域の価値創造エコシステムの構築	R7年度
【中小企業等知的財産支援事業】	740万円
港湾コンテナ基地における蔵置作業効率を最大化する蔵置アルゴリズムのシステム開発	R4年度～R5年度
【成長型中小企業等研究開発支援事業】	1億889万円
次世代太陽光発電向け円筒型太陽電池システムの研究開発	R1年度～R3年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億2,264万円
三次元技術を用いた地域社会への貢献を目的とした高度測量技術に関する研究開発	R1年度～R3年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億2,580万円
5G対応高周波用材料（ガラス・セラミック・テフロン等）への分子接合とメッキ技術を融合した高周波対応次世代メッキ技術の開発	R1年度～R2年度
【戦略的基盤技術高度化支援事業】	1億154万円

内閣府	
ハイブリッド自動車向けSiC耐熱モジュール実装技術の研究開発	H26年度～H30年度
【戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）】	8億4,000万円

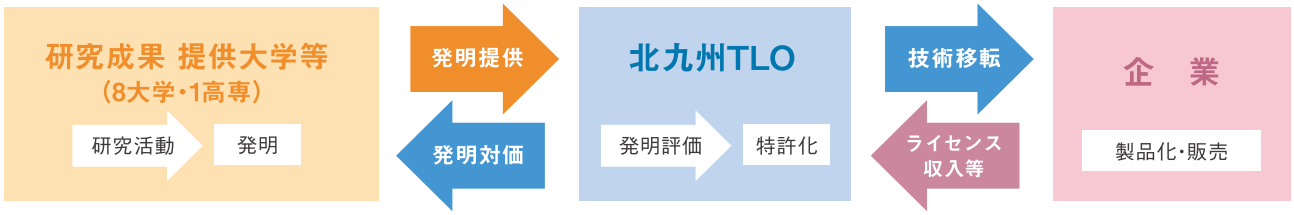
ＪＳＴ	
スマート社会創造に向けたソーシャルイノベーション研究開発・実証拠点	H27年度～H28年度
【世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム】	3億3,500円

文部科学省	
IoTによるアクティブシニア活躍都市基盤開発事業	H28年度～R2年度
【地域イノベーション・エコシステム形成プログラム】	2,150万円
微細加工プラットフォーム	H24年度～R3年度
【ナノテクノロジープラットフォーム事業】	1億円

研究成果の特許化と技術移転 《北九州TLOの運営》

FAISは「北九州TLO（Technology Licensing Organization）」を運営し、地域の大学等の研究者が生み出した研究成果（発明）を特許化し、それらを民間企業へライセンス契約等によって技術移転しています。この技術移転により企業から得られたライセンス収入等の大半を研究者や大学に還元し、新たな研究開発につなげています。北九州TLOの保有技術シーズは、ホームページでも紹介しています。

北九州TLOの仕組み・特許出願等



研究成果提供大学等　九州工業大学、産業医科大学、北九州市立大学、九州歯科大学、西日本工業大学、九州共立大学、中村学園大学、北九州工業高等専門学校、 近畿大学

これまでに事業化・製品化された事例（一部掲載）

「発明の名称」（事業化・製品化の概要）	「発明者・研究代表者」
「界面活性剤系組成物」、「水添加型の消火剤」 （環境にやさしい世界初の石けん系消火剤）	北九州市立大学　上江洲一也教授、河野智謙教授 他
「解剖台」（医学実習用ホルムアルデヒドの直接暴露防止）	産業医科大学　大和 浩教授、菊田彰夫教授 他
「マイクロ波を用いた減圧乾燥方法及びその装置」 （環境にやさしいマイクロ波を用いた減圧乾燥方法）	九州工業大学　鶴田隆治教授 他
「曳糸性測定装置」 （あらゆる流動物質のネバネバ度を測るシンプルなメーター）	九州歯科大学　西原達次教授、柿木保明教授 他
「アスペルギルス属菌及びリゾープス属菌の混合培養系を用いたアミラーゼの生産方法」 （高い酵素活性や豊富な酸を特性とした新しい麹菌）	北九州市立大学　森田洋教授 他

環境にやさしい世界初の石けん系消火剤





製品化企業
シャボン玉石けん㈱

環境にやさしいマイクロ波を用いた減圧乾燥方法





製品化企業
西光エンジニアリング㈱

あらゆる流動物質のネバネバ度を測るシンプルなメーター





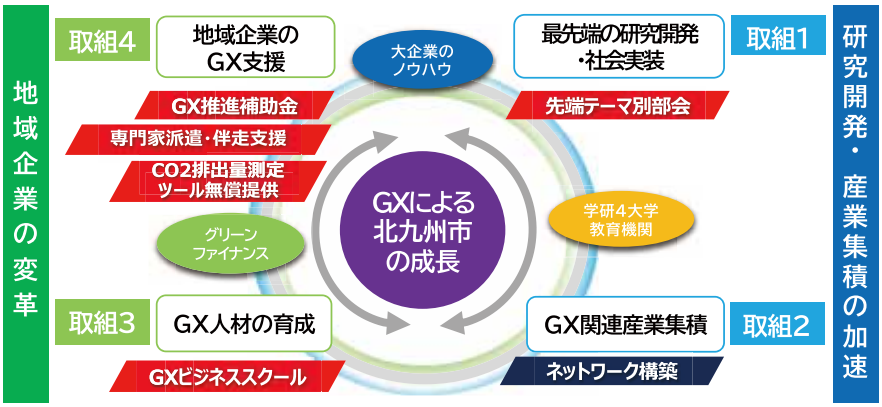
製品化企業
㈱石川鉄工所

学研都市を中心としたGXの推進

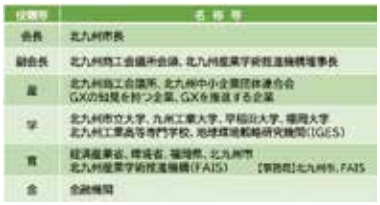
《北九州GX推進コンソーシアムの運営》

カーボンニュートラルを成長の機会と捉え、官民グリーントランスフォーメーション（GX）投資をこの街に呼び込み、北九州の産学官金でGXをより一層推進していくため、令和5年12月12日に「北九州GX推進コンソーシアム」（以下、「コンソーシアム」という。）を創設しました。

このコンソーシアムの枠組みを活用して、北九州学術研究都市等での研究開発など、北九州のポテンシャルを活かした産業集積や、地域企業の成長、新産業を創出に取り組んでいます。







役割等	名称等
会長	北九州市長
副会長	北九州商工会議所、北九州産業学術推進機構理事長
産	北九州商工会議所、北九州中小企業団体連合会 GXの知見を持つ企業、GXを推進する企業
学	北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学、福岡大学 北九州工業高等専門学校、地球環境戦略研究機関（IGES）
官	経済産業省、環境省、福岡県、北九州市 北九州産業学術推進機構（FAIS）　【事務局】北九州市、FAIS
金	金融機関

北九州GX推進コンソーシアムの取り組み

コンソーシアムでは、先端テーマ別部会の運営、GX推進補助金の実施、専門家派遣・伴走支援や専用ホームページ立上げによる広報、会員企業の意識啓発・醸成、ビジネススクールの開講等に取り組んでいます。

2026年2月には、「GX×金融×企業成長」をテーマに金融機関との合同イベントとして総会を開催しました。



GXに関連した最新の動きについての講演や、地域金融機関や企業等によるトークセッションなど様々なプログラムを展開



◆日時　令和8年2月9日（月）
13:30～19:30
◆場所　北九州国際会議場
（メインホール・イベントホール）
◆プログラム
第1部:北九州GX推進コンソーシアム総会
第2部:金融機関との共同イベント
第3部:オープンイノベーション
ネットワーキング（交流会）

全国より約270名が参加

先端テーマ別部会の運営について

コンソーシアムでは、2026年5月現在6つの部会を運営しており、GX の社会実装を進めるため、部会の拡充を進めています。

・プロジェクトメイキング・チームビルディング
・共同研究、国等外部資金獲得支援、実証の場コーディネート
・大学等の研究シーズ紹介
・産学官金出会いの場、マッチングの場

次世代燃料・カーボンリサイクル部会
グリーンLPガス・メタネーション・SAF等の新しいエネルギーソリューションを検討し、産業間の対話を促進
水素、CCUS等も今後のテーマ候補に



自動車部会
徹底した省エネ・再エネ活用に関する取組事例の共有（WG開催）と専門家派遣



半導体部会
発展する先端産業とそれを支える半導体技術の関連性や進化する半導体技術の最新動向を発信



グリーンサーキュラー部会
産業廃棄物処理業界全体のGX推進と「グリーンサーキュラー認定制度」の取組を促進



オープン・イノベーション部会
GX に関心の高い企業間で今後の協業やオープンイノベーションにつなげることを目的に、業種・業界を超えた情報交換と交流の場を提供

未来共創部会
GXに資する可能性のあるテーマについて、テーマごとに議論・研究・勉強会・セミナー等を開催



宇宙　木造建築 ZEB・ZEH　森林火災 カーボンクレジット　学研都市 脱炭素化　意識啓発・機運醸成

技術拠点化の推進

自動車技術拠点化の推進

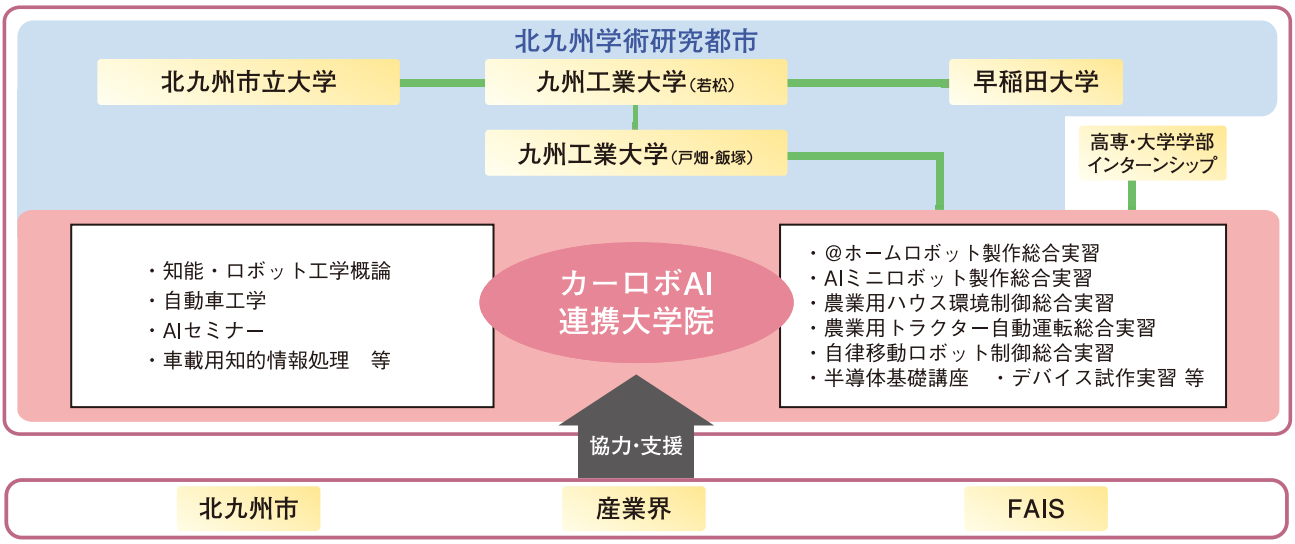
北九州地域における次世代自動車技術の拠点化を目指し、北九州学術研究都市における高度人材の育成を支援するとともに、地域の関連企業の電動化等に向けた環境整備や技術力の底上げ、産学連携による先端的研究開発などを支援しています。

人材育成の推進

カーロボAI連携大学院

高度化・知能化が進む自動車、ロボット、人工知能（AI）の各分野で、次世代を担うリーダーとしての高度専門人材の育成を目的に、学研都市の3大学が運営する連携大学院の教育プログラムを支援（民間講師の紹介等）しています。

また、連携大学院生の企業研究や職業観醸成等のため、日本を代表する自動車・ロボット等関連企業の人事担当者・技術者と少人数で意見交換する機会（オフサイト・ミーティング）の提供等も行っています。



研究開発の推進

「パーツネット北九州」や「北九州自動運転推進ネットワーク」の事務局運営を通じて、セミナーや勉強会、視察会の開催、実証事業等を実施し、産学連携、会員企業同士の連携を強化することにより、部品の軽量化等の脱炭素社会の実現に資する環境技術や自動運転関連技術など、学研都市のシーズを活かした特色のある自動車関連技術の研究開発を支援します。

地場企業支援

CASEといった言葉に代表される、100年に一度の大変革の真っただ中にいる自動車産業界において、企業のCASE対応、生産性向上、ものづくり力の向上、企業の人材育成の拡充などを目指して、地場企業を支援しています。

北九州市・FAISサプライヤー応援隊事業

❶人材育成事業

企業の階層別に必要な能力を整理し、それぞれに必要なスキル・技能を学べるようなカリキュラムを編成しています。最新の自動車部品に搭載されている技術や開発動向、自社内で体系的な人材育成体制を整備できない中小サプライヤーの技術者向けの内容も意識して、取り組んでいます。







若手・中堅技術者育成カリキュラム	標準化推進カリキュラム	リーダー・幹部育成カリキュラム	SQCカリキュラム	専門技術者育成カリキュラム
1.方針管理、日常管理、QCサークル 2.作業要領書作成演習 3.問題解決手法 4.QC手法と演習	1.標準化の重要性 2.作業要領書作成演習 3.作業FMEA演習 4.作業要領書の改訂 5.未然防止型QCストーリー	1.方針管理、日常管理、小集団管理、人材育成 2.グループ討議 3.原価管理、生産性管理 4.生産性向上 5.GX・DXの推進 6.グループ討議、発表	1.QC7つ道具 2.SQCの基礎 3.管理図と工程能力 4.単相関、単回帰、重回帰	現役技術者等がEV化による地場企業の参入部品やツーリング、BEVシステムの技術解説と部品構成について解説

❷TQM出前講義事業

日産自動車の九州への生産移管やトヨタ自動車のレクサスのEV化の進展等、北部九州での集積が期待される次世代自動車等への参入を目指す地場サプライヤーを支援するため、意欲のある経営者・管理者等を対象にTQM出前講義を行うことで、企業基盤の強化等を図る。



令和7年度実施状況

企業名	実施回数
㈱戸畑ターレット工作所	3回
㈱野原商会	1回
松本工業㈱	22回
吉川工業ファインテック㈱	14回



松本工業㈱と武内市長

TQM出前講義実施効果

①松本工業㈱　日本品質奨励賞TQM奨励賞受賞
②松本工業㈱　経済産業省ミカタプロジェクトにて、最優秀賞受賞（全国の好事例から5社選出）
③吉川工業ファインテック㈱　Tier2→Tier1へ受注決定

❸現場派遣事業

EV化等の自動車産業を取り巻く環境の変化に対応するため、自動車メーカーOB等のアドバイザーを企業に派遣し、現場改善や技術導入の実践を通してEV化に向けた環境整備や技術の磨き上げなど、各企業の状況に応じた伴走支援を実施。

クルマの未来館 ひびきの

北九州地域の自動車関連企業等を対象に、次世代自動車を構成する部品への理解を深め、今後の新規参入等の参考にしていただくため、日産サクラ（電気自動車）を1台丸ごと分解展示しています。

自動車産業支援センターのコーディネータ（自動車メーカー出身者）が、実物を前に部品や技術の解説、技術相談、マッチング支援、業界の最新動向説明などを行っています。



展示コーナー



電動化固有ユニット・機能部品類関係



内外装ボデー関係

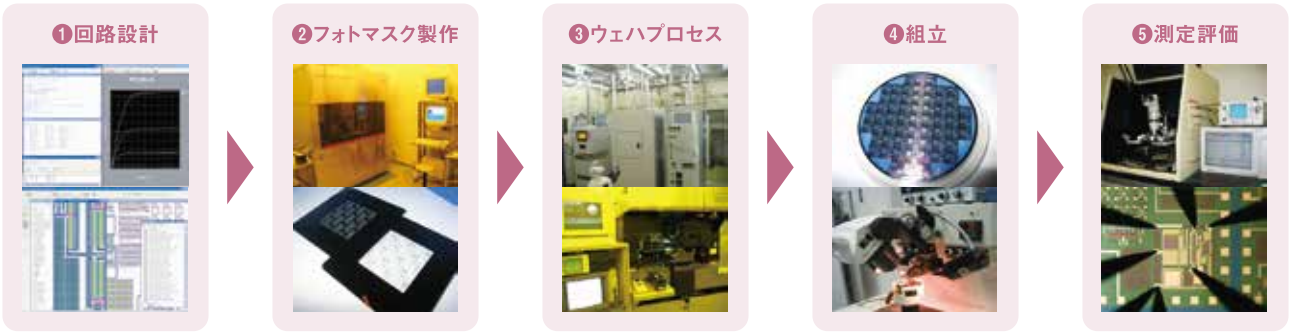


パーツネット北九州会員企業
電動化関連開発部品

半導体・研究開発技術拠点化の推進

半導体産業関連企業支援

半導体設計ツールやIC・MEMS微細加工装置、評価・解析機器を整備し、半導体・エレクトロニクス関連企業に対して、設計から製造、評価・解析までの一貫した設備環境を提供し、北九州市における半導体産業の振興に努めています。

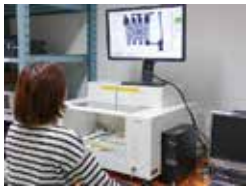


■ IC・MEMS微細加工環境の提供

共同研究開発センターでは、IC・MEMSなどを作製する微細加工設備を提供しており、大学・研究機関、企業などの基礎研究からプロトタイプ試作まで幅広く支援しています。

■ 半導体評価・解析環境の提供

信号発生器や波形分析器等の評価機器、X線透視装置やマイクロスコープ等の解析機器及び環境評価装置など、充実した評価・解析環境を提供しています。


X 線透視観察


半導体特性評価


サーモストリーム


デジタル入出力デバイス
計測システム

北九州半導体ネットワークの活動

北九州市域の半導体関連産業の振興のため、国、県と連携しながら、参加企業の取引拡大や人材育成・確保等につながる取組を進め、本市域の半導体関連産業の活性化を図るため、令和4年7月に設置しました。①半導体の人材育成・人材確保、②販路の開拓や企業間交流の促進、③技術・研究開発を中心に取組を推進しています。

①半導体の人材育成・人材確保

■ 半導体技術者育成講座（ひびきの半導体アカデミー）の開催

半導体技術者育成講座「ひびきの半導体アカデミー」を見直し、市域企業や高専等ニーズを反映した、半導体のものづくりの全体像が分かる基礎教育を提供しています。

・半導体活用基礎講座（オンデマンド、高専専用）
・パワーシステムマイコン講座
・半導体技術者検定エレクトロニクス3級対策セミナーなど

●令和7年度：講座数 6講座、参加者数 85名

※半導体活用基礎講座（オンデマンド）受講者に対し、クリーンルーム体験講座を実施


半導体活用基礎講座（高専専用）

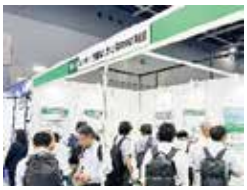

クリーンルーム体験講座

②販路の開拓や企業間交流の促進

■ 半導体の大型展示会への出展

北九州半導体ネットワーク会員の販路の拡大・企業間交流の促進のため、国内外の大型展示会に出展し、会員企業の技術や製品を広くPRすることで、会員企業の販路開拓を多角的に支援しました。


SEMICON Taiwan2025


第2回［九州］半導体産業展

■ 北九州半導体ネットワーク総会の開催

北九州市域における半導体産業の振興と北九州半導体ネットワークの強化を目的として、令和8年2月6日（金）リーガロイヤルホテル小倉にて第5回北九州半導体ネットワーク総会を開催しました。総会後の特別講演会ではRapidus株式会社の折井専務執行役員に「メイド・イン・ジャパンの挑戦：チップレット技術が拓く新次元への道」というテーマで講演をいただいたところ、200名以上の方が参加し、大盛況となりました。総会は毎年1回開催し、特別講演会の講師は半導体業界で注目されている人物・企業に来ていただいております。





特別講演会（Rapidus㈱ 折井専務執行役員）



交流会

■ 大手半導体メーカーとのビジネスマッチング（技術提案会）の開催

北九州半導体ネットワーク会員の販路の開拓、企業間交流の促進のため、令和7年6月2日（月）北九州学術研究都市にて、大手半導体メーカーと北九州半導体ネットワーク会員とのビジネスマッチング（技術提案会）を開催しました。大手半導体メーカーのニーズを北九州半導体ネットワークに周知し、ニーズに対し提案する企業を募集しました。5社の会員が最終提案まで残り、大手半導体メーカーとのビジネスマッチング（技術提案会）につながりました。



③技術・研究開発

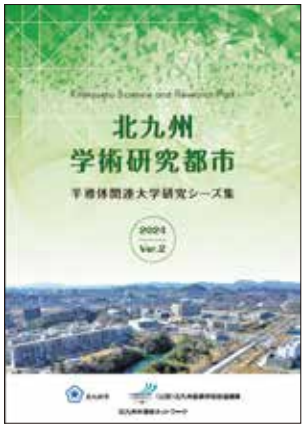
■ 半導体テスト分野の研究開発の促進

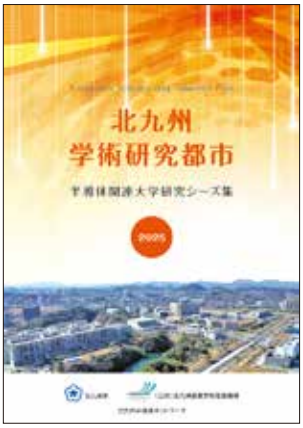
これからの技術革新で重要な役割を持つ半導体テスト分野の産学官連携の交流ネットワークとして「ひびきのテスト研究会」を設立し、技術・研究開発の促進に努めています。

●令和7年度 2回開催（23社、9大学研究室、1研究機関が参加）

■ 研究開発情報の提供

北九州学術研究都市に立地する3大学（北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学）の半導体に関わる研究者36名（39テーマ）の研究内容をまとめた研究シーズ集を作成し、企業と大学の共同研究につながる情報を提供しています。





▶ 中小企業へのロボット導入支援、DX推進

北九州市ロボット・DX推進センター



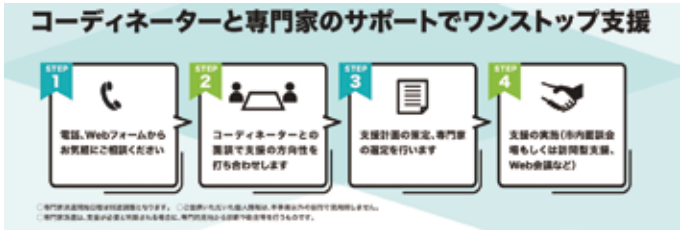
北九州市ロボット・DX推進センターは、地域の中小企業のニーズに応え、ロボット導入やDX（IoTの導入、業務のデジタル化等）推進をワンストップで支援するために、2022年4月から活動を開始しました。

当センターでは 導入支援 操作体験 人材育成 等の取組みを通して、ロボット導入やDX推進に意欲のある地域企業を総合的・一元的に伴走支援しています。

また、集い・つながりの場として、地域企業と高等教育機関、金融機関等との連携を促進し、産学官金のハブとしての機能を果たしています。

ワンストップ相談窓口の運営

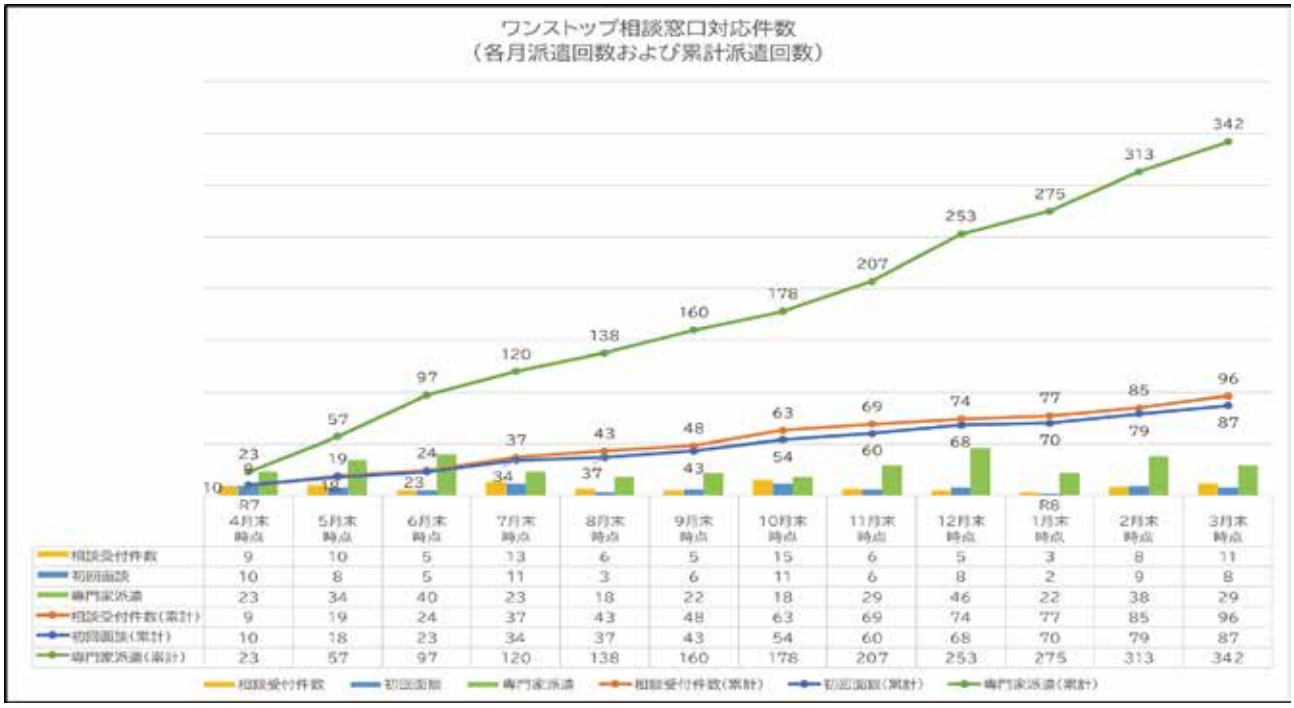
ワンストップ相談窓口では、ロボット導入や、デジタル技術を活用したDXの推進に関する相談を受け付け、コーディネーターによる支援計画の作成や専門家による伴走支援を行います。





【ワンストップ相談窓口連絡先】
https://ktq-robodx.jp/
TEL：093-695-3090
（受付時間：平日9時～17時）

ワンストップ窓口　専門家・コーディネーター派遣実績件数



	R7 4月末時点	5月末時点	6月末時点	7月末時点	8月末時点	9月末時点	10月末時点	11月末時点	12月末時点	R8 1月末時点	2月末時点	3月末時点
相談受付件数	9	10	5	13	6	5	15	6	5	3	8	11
初回面談	10	8	5	11	3	6	11	6	8	2	9	8
専門家派遣	23	34	40	23	18	22	18	29	46	22	38	29
相談受付件数（累計）	9	19	24	37	43	48	63	69	74	77	85	96
初回面談（累計）	10	18	23	34	37	43	54	60	68	70	79	87
専門家派遣（累計）	23	57	97	120	138	160	178	207	253	275	313	342

ロボット導入支援等に関する取り組み

ロボット技術開発拠点化の推進・中小企業へのロボット導入支援

ロボット研究開発支援

●ロボット技術の研究開発支援
●ロボット関連プロジェクト支援
●ロボット産業マッチングフェアの開催
●各種技術セミナーの
開催・情報発信

※北九州ロボット
フォーラムの事務局
としてロボット技術の
研究開発を支援



産業用ロボット導入支援・人材育成

●ロボット導入による生産性向上支援
●ものづくり企業への現場派遣
●各種補助金の申請支援
●システムインテグレータとの連携推進
●ロボット導入につながる情報提供
●生産性向上スクールの開催、
工業高校生、大学生のインターンシップ受入
●学生向け職業体験イベントへの出展


ロボットのデモンストレーション展示

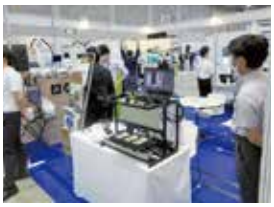
※ロボット・DX推進センターを拠点として、ロボット導入に関わる
取り組みを実施

【令和7年度の取り組み】

ロボット研究開発支援

ー地域の産学官連携の仕組みづくりー
ロボット産業マッチングフェア・セミナー開催

市内のロボット関連企業や大学等20団体が出展する展示会を「課題解決エキスポ2025」と同時開催。





ーロボット技術の研究開発支援ー
ロボット・イノベーション推進補助金

市内の大学等研究機関・企業の革新的なロボット関連技術を活用したイノベーションを一層加速させるため、2大学等のロボット技術研究開発を支援した。

ー学生向け競技会への後援ー
第12回トマトロボット競技会
ロボメカデザインコンペ2025

地域の教育機関が中心となり開催している学生向け各種競技会に対する後援を通じて、ロボット研究開発への活動支援を行った。

産業用ロボット導入支援・人材育成

ロボット・DX推進センターを拠点として、市内企業の生産性向上・ものづくり力強化を目的にロボット導入を総合的に支援します。

●ロボット導入に関する企業訪問・技術相談
●人材育成（ロボット技術者およびシステムインテグレータ）
●ロボット導入に関する情報発信

令和7年度の活動内容

●ロボット導入支援
産業用ロボット等導入支援補助金　6社
●現場派遣・技術相談
市内企業：109件、市外企業：4件
●生産性向上スクール
ロボット編5講座、のべ32名の参加者
●提携セミナー
ロボット編9講座、のべ99名の参加者
●システムインテグレータ・ネットワーク推進
●インターンシップ受入、学生向け産ロボ人材育成
工業高校：2校79名


❶ロボット導入事例


❷ロボット導入事例


❸生産性向上スクール


❹工業高校インターンシップ

内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」事業

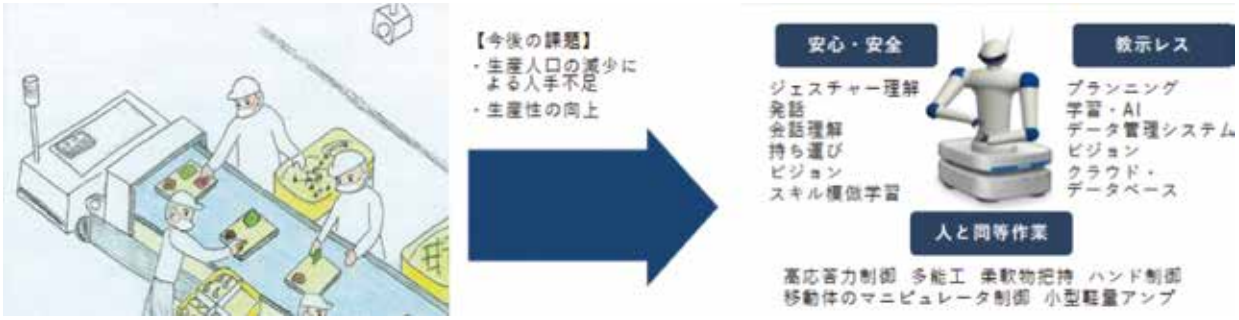
【計 画 名】革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト

【参画機関】北九州市、北九州産業学術推進機構、九州工業大学、㈱安川電機　他

【事業期間】平成30年～令和9年（うち国補助期間5年間）

1. 革新的ロボットテクノロジーによる「自律作業ロボット」の研究開発【九州工業大学、㈱安川電機】

- 自律作業ロボットの研究開発事業



- 国内外からのトップレベル人材招聘事業
  新しい産業用ロボットの研究開発に向けて、国内外からトップレベルの研究者・専門家を招聘します


比留川博久教授


ロイフ・ファイファー教授


スティーブ・カズンズ教授


山田陽滋教授

- 中小ものづくり企業の生産性向上のための研究開発支援事業
- 安川テクノロジーセンタ整備事業（交付金事業対象外）

2. 先端技術の社会実装の推進（現場主義・実践主義）

1）生産性向上支援事業
- 産業用ロボット導入支援
  FS事業、導入支援補助金
- 第4次産業革命　エグゼクティブビジネススクール
- ロボット・IoTを活用した生産性向上スクール

2）人材育成・若者定着事業
- ロボット導入等の課題解決型インターンシップ事業
- 有給インターンシップの実施
- 工業高校・高専・ポリテク等でのロボット教育



北九州市における導入支援策

3）北九州市 ロボット・DX推進センターの運営
中小ものづくり企業への産業用ロボット導入等を推進するため、「北九州市 ロボット・DX推進センター」を北九州学術研究都市に開設し、運営しています

3. キラリと光る地方大学づくり【九州工業大学】

- 連携大学院（ロボティクスシンセシス&マネジメントコースの運営）
- AIシーズニーズマッチングシステムの運用
- 有給インターンシップの実施







DX推進に関する取り組み

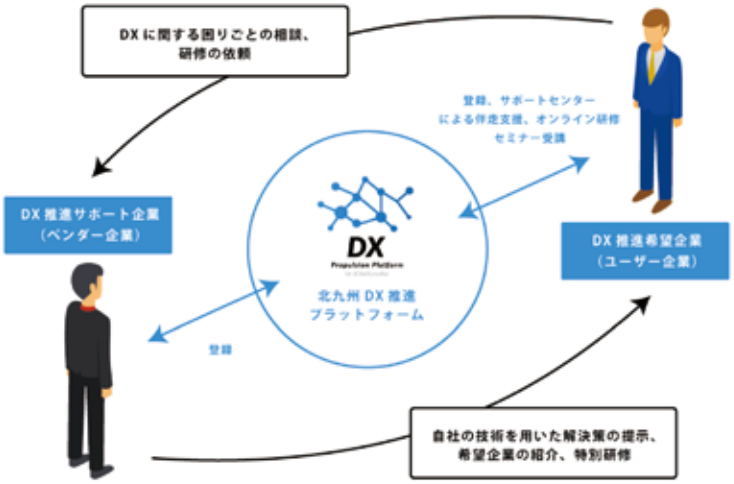
DX推進補助金を実施

◆2つの補助金枠を設け、市内中小企業のDX推進を取り組み状況に応じて支援を実施

補助金の種類	計画策定枠	事業変革枠
概要	デジタル技術の活用による成長に向けた中期経営計画等の事業計画策定にあたり必要となる費用を対象とする。	中期経営計画等に基づき、デジタル技術を活用して事業変革を目指す取り組みを対象とする。
対象企業	市内に事業所を有する中小企業	
交付上限	最大200万円	最大500万円
補 助 率	対象経費の2/3以内	対象経費の2/3以内
支援した件数（令和7年度）	5件	6件

北九州市DX推進プラットフォーム

DXを推進したい北九州市内の企業と、DXの推進をサポートする企業をつなぐために、令和2年度に北九州市が創設したプラットフォーム。令和4年度より北九州市ロボット・DX推進センターで運営管理。



ー DXを推進したい企業とサポートする企業をつなぐー



専用Webサイト

西日本DX推進フェアの開催

北九州市産業経済局中小企業振興課及び公益財団法人北九州観光コンベンション協会との共催により、課題解決Expo2025内で西日本DX推進フェアを開催しました。

今回はDXのみならずGXも交え、北九州市DX推進プラットフォーム&北九州GX推進コンソーシアムとしてのブース出展を行いました。

【会期】令和7年7月2日（水）～7月4日（金）
【会場】西日本総合展示場
【出展】60社 107小間
【来場】17,023人（課題解決Expo2026全体）

また、7月3日には、DX・GXによる企業・事業・社会の変革セミナーを開催しました。セミナーでは「企業・事業・社会の変革」をキーワードに、DX・GXについて活躍中の方や先進的な取り組みを行っている北九州市の中小企業や事業者を招いて講演やパネルディスカッションを実施し、令和6年度北九州DX大賞取組事例の発表・表彰式も行いました。





北九州システムインテグレータネットワークの取り組み

北九州システムインテグレータネットワークとはロボットやデジタル技術等を取り扱うシステムインテグレータ企業19社で構成。

「北九州地域における中小企業の生産性を向上させること」「北九州地域をシステムインテグレータの拠点とすること」を主目的として、北九州地域の産業振興を図ることを目指しています。

北九州システムインテグレータネットワークの活動を強化し、定例会議の開催やロボット産業マッチングフェアへの共同出展、および地元企業へ自動化に向けた提案などの活動を行いました。





令和7年度（2025）における主な取り組み
西日本総合展示場で開催された「ロボット産業マッチングフェア2025」（令和7年7月2日～4日）にて共同出展
協議会（総会）開催（ハイブリッド形式）
デジタル系会員企業を中心とした情報交換会の開催
九州工業大学田向研究室が参画するロボティクス分野の生成AI基盤モデルに向けた研究開発プロジェクトへの支援



エグゼクティブビジネススクールの実施
第4次産業革命への対応力を経営トップ自ら検討できる日本で唯一のビジネススクール

DX、第4次産業革命が進む中で、デジタル技術を活用し、成長を目指す中小ものづくり企業の経営層向けビジネススクールです。

デジタル技術による、生産性向上、業務革新、事業成長、技術継承、人材育成、国際基準への準拠等の様な利点について理解を深め、自社の進むべき将来像を描けるようになるための講座です。これまでの受講者からは非常に高い評価を得ています。

スクールのカリキュラム（令和7年度）

No.	日程	内容	講師
特別講座	令和7年8月29日～30日	DX・第4次産業革命の機会と脅威（ものづくり編）	㈱野村総合研究所 藤野 直明 氏、梶野 真弘 氏
	令和7年9月26日～27日	DX・第4次産業革命の機会と脅威（流通編）	㈱野村総合研究所 藤野 直明 氏、梶野 真弘 氏
	令和7年10月10日～11日	DX・第4次産業革命の機会と脅威（物流編）	㈱野村総合研究所 藤野 直明 氏、梶野 真弘 氏
本講座	令和7年10月17日～18日	IoT、第4次産業革命の全体像	早稲田大学大学院 吉江 修 氏 早稲田大学IPS・北九州コンソーシアム 後藤 智 氏
	令和7年11月21日～22日	プロジェクトスケジュール管理	早稲田大学大学院 藤村 茂 氏
	令和7年11月28日～29日	受注管理業務	大分高専 尾形 公一郎 氏
	令和7年12月12日～13日	設計業務の効率化、製造実行管理、品質管理	熊本高専 田中 禎一 氏 鹿児島高専 島名 賢児 氏
	令和8年1月30日～31日	製品設計・生産設計と製造現場、 アフターマーケットとのデータの統合管理	北九州高専 宮本 章 氏

デジタル人材教育プログラム（everiGo）の実施

北九州市近郊でシステムエンジニアを目指すIT未経験の方向けのWEB系システム開発プログラマ育成プログラムeveriGo（事業主体:北九州市立大学）について、FAISはプログラム運営、連携先企業の紹介等をサポートしています。（令和7年度受講者数 41名）

生産性向上スクールの実施

ロボット・IoT・AI等を活用した生産性向上支援事業





【ロボット編】

製造現場の管理者・現場リーダーなどを対象に、生産性向上や人手不足対策に必要なロボット技術を身に付けるための研修を実施しました。

科　目	開 催 日	受講者数
産業用ロボット基礎講座	10月2日	4名
	10月10日	2名
	10月16日	3名
	10月17日	4名
	10月21日	2名
産業用ロボット活用講座	11月6日	3名
人協働ロボット基礎講座	10月9日	3名
	10月30日	3名
人協働ロボット活用講座	10月23日	4名
ロボットシミュレータ活用講座	11月27日	4名
合　計		32名

【デジタル編】

企業がDX推進などにより生産性向上を効果的に進め、さらに付加価値創造を考える業務改革（BPR）とデジタル技術の有効な活用策をテーマとしたスクールを開催しました。

科　目	講　師	開催日	受講者数
生産性向上とは何か ～業務効率化と付加価値創造～	北九州市立大学 平川産業（株）	11月14日 1月23日	11名 10名
業務プロセス再設計で 実現する企業強化 ～業務改革BPR～	（株）シティアスコム	11月21日 1月29日	9名 11名
DXとイノベーションの創出 ～付加価値創造を考える～	（株）シティアスコム	11月28日 2月5日	5名 12名
人材育成と社員スキル ～業務改革と付加価値創造を 支える人づくり～	（株）Bottok	12月5日 2月13日	10名 8名
合　計			76名

提携セミナーの実施

デジタル関連企業と提携し、地域企業の生産性向上に繋がるセミナーを開催しました。

【ロボット編】	講　師	開催日	受講者数
ロボット制御を簡単に! ～NCデータでのロボット制御・CAD/CAM最新情報のご紹介～	㈱ブレイン	7月16日	16名
屋内位置情報システムによる自律搬送機の実演デモセミナー ～低価格の自律搬送機システムのご紹介～	㈱ネクスティエレクトロニクス	8月6日	6名
協働ロボット・最新技術体験セミナー	ファナック㈱	8月27日	12名
AIカメラ付協働ロボ活用セミナー～1台で搬送・検査・仕分作業ができる!～	プレミアエンジニアリング㈱	9月10日	10名
IoT／GX講座セミナー（スマート工場/省エネ工場の実現方法について）	三菱電機㈱	9月17日	14名
ロボットシステムセミナー	三菱電機㈱	10月3日	9名
最新アーク溶接ロボットセミナー	㈱ダイヘン	10月24日	10名
PLC（シーケンサ）・エンジニアリングツール操作体験セミナー	三菱電機㈱	11月20日	13名
自動化実例紹介セミナー	フォースウェーブ・パートナーズ㈱	1月15日	9名
合　計			99名

【デジタル編】	講　師	開催日	受講者数
生成AI業務活用セミナー～無料から試せる!生成AIを業務で活用する3ステップ～	（株）VIVINKO	7月23日	17名
営業の人員不足と属人化を仕組みで解決する"営業DXの初手"解説セミナー	（株）etika	8月20日	10名
DXって本当に必要?デジタル化で業務はどう変わる? ー 身近な業務改善から考える、DXのはじめの一歩 ー	（株）エンビジョンナッジ	8月21日	9名
生成AI+kintoneで変わる現場の効率化 ～限られた時間と人材を活かす術～	ギグワークスクロスアイティ（株）	9月18日	9名
IoT活用による製造現場カイゼンセミナー	イジゲングループ（株）	9月19日	5名
開発現場・製造現場・現場管理をIoTサービスやAIを利用して改善セミナー	（株）ユビキタスAI	10月28日	7名
いまさら聞けないChatGPT入門	コネクト合同会社	10月31日	17名
「DX、何から手をつけるべき?」業務効率化の新常識"BPaaS"を 基礎から学べるセミナー	（株）kubell	11月5日	5名
ハンズオンで学ぶ!生成AI活用術	（株）インターネットイニシアティブ	11月19日	8名
中小企業の情報セキュリティをゼロから考えるワークショップ	ストラテジア	12月2日	9名
業務改善とDX成功の秘訣は"情報の流れ"にある! ～会議・業務改革の実例から学ぶ生産性向上セミナー	クロスディーズ （佐々木総研グループ）	12月3日	4名
合　計			100名

中小企業・ベンチャー企業への総合的支援

中小企業の総合的支援

中小企業の経営支援

◎総合相談・休日創業相談の実施

中小企業診断士等の専門家を窓口に配置し、市内中小企業が抱える様々な相談に対応しています。また、平日に来訪が困難な創業予定者には、休日（土・日）相談を実施しています。

●令和7年度実績：総合相談件数612件

◎巡回相談の実施

直接企業に出向いて様々な相談に応じる巡回相談員を配置し、訪問企業に対し支援メニューや支援担当部署等の紹介をしています。

●令和7年度実績：299社

◎専門家の派遣

経営革新等に積極的に取り組もうとする中小企業に対し、専門家（登録約150名）を派遣して支援をしています。

●令和7年度実績：6社、24回

中小企業支援センター



チーフマネージャー
前川 和之（まえかわ かずゆき）
地元金融機関出身
金融機関での経験を活かし、中小企業の資金繰りや融資相談、創業相談など、経営全般に関わる悩みを積極的にサポートする。



マネージャー
籾井 隆志（もみい たかし）
アルテックソリューションズ(株)
代表取締役
中小企業診断士、一級建築士
経営者、エンジニア及び経営コンサルタントの経験を活かして、中小企業の持続的成長を支える仕組みづくりなど総合的な支援を行う。



マネージャー
河野 健一（かわの けんいち）
中小企業診断士
インテリア販売会社で現場やエリアリーダーに携わり、中小企業診断士として独立。現場経験を活かし、特に小売業・卸売業・飲食業等のサポートを得意とする。



マネージャー
森 直樹（もり なおき）
産学官すべての立場を経験した知見を活かし、新商品開発や、生産性向上、経営改善等、中小企業の問題可決をサポートする。



巡回相談・マッチング担当
村田 信敏（むらた のぶとし）
中小企業診断士
市内の製造業を対象に訪問し、各種相談に応じる。支援施策や担当部署を紹介。あわせて、製造業の受発注のマッチングを担当。

◎創業支援の実施

開業資金の調達や事業計画の策定など創業に関する相談や創業セミナーを開催することにより、創業希望者に対し開業までの支援を行っています。

●令和7年度実績：創業31社

◎マッチングコーディネートの実施

専門的知識や幅広い人脈を持つマッチング担当者が市内のものづくり中小企業の取引先や提携先を紹介し、販路開拓を支援します。

●令和7年度実績：マッチング件数5件、成約件数1件

◎知的財産活用の実施

北九州地域の中小企業の新技術・新商品開発や新たな特許取得等を促進するため、知的財産権に関する相談・指導や特許活用等の支援を行っています。

●令和7年度実績：知財窓口支援557件



窓口支援担当者
武内 洋介（たけうち ようすけ）
住宅設備メーカー出身
研究、開発、製造の経験を活かし特許・意匠・商標の出願サポートに留まらず、知的財産を通して企業の業績向上に貢献できるような支援を行う。

情報発信



◎北九州市中小企業支援ガイドブック

北九州市内の中小企業が利用可能な行政等の支援施策をまとめた冊子です。
中小企業支援センターで無料配布しています。

●発行部数　6,000部

◎メールマガジンによる情報発信

「中小企業支援センタートピックス」を配信中。
補助金、セミナー情報等中小企業に関するトピックスを掲載しています。

●配信先　約3,664件（令和8年3月末現在）
●毎週木曜日配信



◎ネットワーク北九州の発行

中小企業支援施策の紹介等をまとめた市内中小企業向け情報紙
「ネットワーク 北九州」を毎月1日に発行しています。

●中小企業支援センターHPからダウンロード可能です
https://www.ktc.ksrp.or.jp/about/#network

セミナーの開催



◎実践起業塾2025

起業予定者、起業後間もない方を対象に、起業の心構え、事業計画書作成の
基礎知識や財務、会計などについて学ぶ講座を開催しました。

●令和7年度実績　受講者12名

その他中小企業支援

◎事業承継相談窓口

事業承継（親族・従業員・M&A）に関するあらゆるご相談に対応します。
●毎月第2・4水曜日　13:00～17:00
令和7年度実績　34件

◎インボイス制度・電子帳簿保存法相談窓口

●毎月第1・3水曜日　13:00～16:00

財団運営

評議員名簿（令和8年6月19日現在）

五十音順

氏名	役職名
麻生　弘之	九州電力㈱執行役員北九州支店長
粟野　秀慈	九州歯科大学長
片山　憲一	北九州市副市長
片山　佳樹	北九州工業高等専門学校長
城野　和幸	福岡県商工部新産業振興課長
田原　竜夫	産業技術総合研究所 九州センター 所長代理
津田　純嗣	北九州商工会議所会頭
堀江　正知	産業医科大学長
山本　和男	（公社）九州機械工業振興会会長

役員名簿（令和8年6月19日現在）

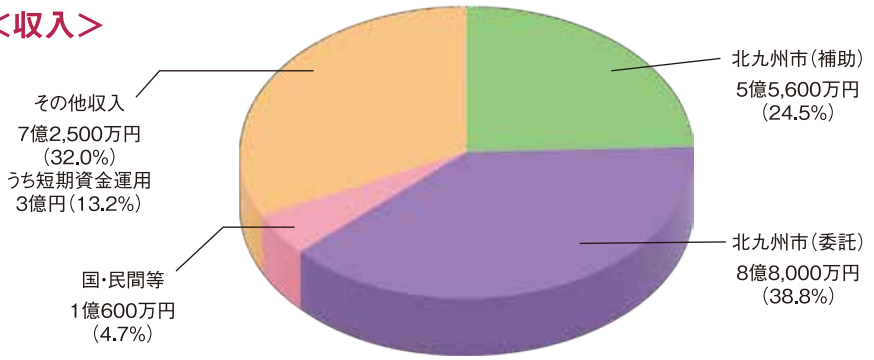
五十音順

役員の種類	氏名	役職名
理　事　長	松永　守央	（公財）北九州産業学術推進機構理事長
副理事長	白水　浩一	トヨタ自動車株式会社 デジタルソフト開発センター フェロー
専務理事	春日　伸一	（公財）北九州産業学術推進機構専務理事
理　　事	井上　文人	早稲田大学常任理事
〃	坂本 比呂志	九州工業大学理事・副学長
〃	柴田　泰平	北九州市産業経済局長
〃	富澤　善和	(一社)北九州中小企業団体連合会会長
〃	中武　繁寿	北九州市立大学理事・副学長
〃	矢野　宏之	北九州情報サービス産業振興協会会長
監　　事	岩男　英徳	㈱西日本シティ銀行取締役常務執行役員北九州総本部長
〃	岩佐　健史	北九州市会計室長

▶ 令和7年度 決算資料

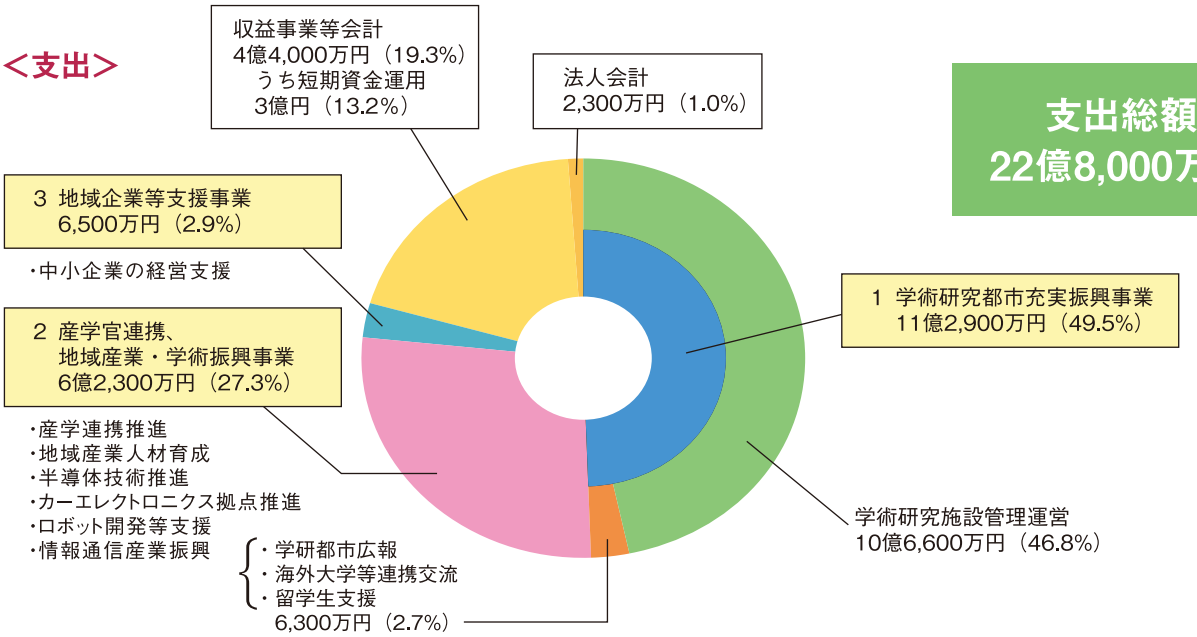
収入および支出内訳

<収入>



収入総額
22億6,700万円

<支出>



支出総額
22億8,000万円

貸借対照表

令和8年3月31日現在
（公財）北九州産業学術推進機構　（単位:円）

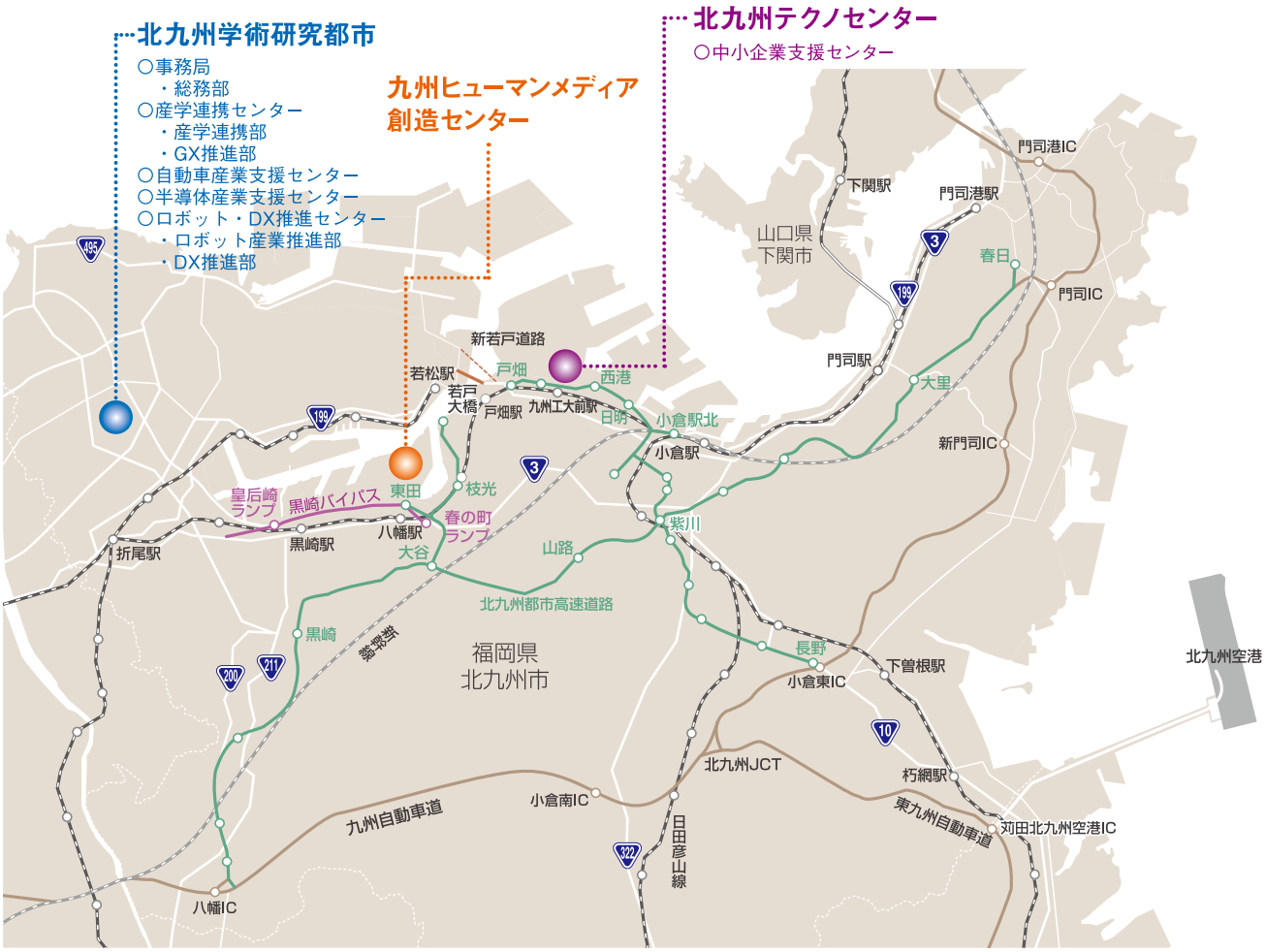
科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	511,878,123	525,030,124	△ 13,152,001
未収金	303,933,382	288,843,518	15,089,864
流動資産合計	815,811,505	813,873,642	1,937,863
2．固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	282,947,240	286,062,778	△ 3,115,538
普通預金	2,552,760	278,824	2,273,936
基本財産合計	285,500,000	286,341,602	△ 841,602
(2) 特定資産			
建物	539,282,120	557,949,578	△ 18,667,458
建物付属設備	546,706	5,856,380	△ 5,309,674
構築物	1	1	0
機械設備	8,831,008	11,241,870	△ 2,410,862
什器備品	8,339,890	9,753,153	△ 1,413,263
留学生支援事業積立資産	0	1,000,000	△ 1,000,000
学研都市充実強化積立資産	9,636,411	9,636,411	0
特定プロジェクト支援積立資産	16,055,760	16,055,760	0
旭興産研究支援事業積立資産	667,954	474,527	193,427
上野精機人材育成事業積立資産	13,684,500	13,899,500	△ 215,000
修繕積立資産	205,320,000	198,320,000	7,000,000
普通預金	180,820,000	177,320,000	3,500,000
投資有価証券	24,500,000	21,000,000	3,500,000
ビル附属設備積立資産	159,209,190	148,209,190	11,000,000
預り敷金積立資産	72,393,480	75,705,696	△ 3,312,216
特定資産合計	1,033,967,020	1,048,102,066	△ 14,135,046
(3) その他固定資産			
建物付属設備	21,584,309	23,782,043	△ 2,197,734
構築物	475,389	363,794	111,595
機械設備	1,557,885	2,474,745	△ 916,860
什器備品	9,665,204	14,307,841	△ 4,642,637
無形固定資産	2,458,828	3,651,967	△ 1,193,139
電話加入権	73,000	73,000	0
保証金	20,000	20,000	0
リサイクル預託金	6,960	6,960	0
長期未収金	0	69,002	△ 69,002
その他固定資産合計	35,841,575	44,749,352	△ 8,907,777
固定資産合計	1,355,308,595	1,379,193,020	△ 23,884,425
資産合計	2,171,120,100	2,193,066,662	△ 21,946,562
Ⅱ 負債の部			
1．流動負債			
未払金	271,360,068	256,803,536	14,556,532
預り金	9,925,357	9,412,159	513,198
流動負債合計	281,285,425	266,215,695	15,069,730
2．固定負債			
受入保証金(預り敷金)	72,393,480	75,705,696	△ 3,312,216
固定負債合計	72,393,480	75,705,696	△ 3,312,216
負債合計	353,678,905	341,921,391	11,757,514
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
北九州市補助金	301,999,304	314,279,716	△ 12,280,412
国庫補助金	249,542,404	258,790,951	△ 9,248,547
寄付金	214,352,454	215,374,027	△ 1,021,573
基本財産受取利息	1,226,064	841,602	384,462
指定正味財産合計	767,120,226	789,286,296	△ 22,166,070
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,841,602)	△ 841,602
(うち特定資産への充当額)	(564,487,390)	(586,491,540)	(△ 22,004,150)
2．一般正味財産	1,050,320,969	1,061,858,975	△ 11,538,006
(うち基本財産への充当額)	(85,500,000)	(85,500,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(469,479,630)	(461,610,526)	(7,869,104)
正味財産合計	1,817,441,195	1,851,145,271	△ 33,704,076
負債及び正味財産合計	2,171,120,100	2,193,066,662	△ 21,946,562

正味財産増減計算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで
（公財）北九州産業学術推進機構　（単位:円）

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,785,900	1,832,300	△ 46,400
②特定資産運用益			
特定資産受取利息	1,022,021	135,600	886,421
③事業収益			
北九州市受託事業収益	879,726,080	883,020,000	△ 3,293,920
その他受託事業収益	94,136,913	95,368,819	△ 1,231,906
TLOライセンス事業収益	323,092	431,772	△ 108,680
その他事業収益	218,184,433	215,325,506	2,858,927
収益事業等会計収益	21,592,291	21,304,436	287,855
ビル事業収益	130,160,960	137,014,752	△ 6,853,792
④受取補助金等			
受取北九州市補助金	551,990,728	548,145,992	3,844,736
受取国庫補助金	4,761,720	236,000	4,525,720
受取補助金等振替額	25,724,953	29,078,441	△ 3,353,488
⑤受取寄付金			
受取寄付金振替額	27,799,573	22,067,421	5,732,152
⑥雑収益			
雑収益	1,281,869	1,084,739	197,130
経常収益計	1,958,490,533	1,955,045,778	3,444,755
(2) 経常費用			
①事業費			
役員報酬	13,395,133	13,289,070	106,063
給与	256,401,898	249,701,716	6,700,182
福利厚生費	56,199,946	56,000,476	199,470
会議費	6,430,271	7,148,248	△ 717,977
渉外費	696,790	671,773	25,017
旅費交通費	18,973,867	13,560,131	5,413,736
通信運搬費	6,622,982	7,447,526	△ 824,544
減価償却費	41,464,340	46,929,883	△ 5,465,543
消耗品費	31,774,780	32,023,804	△ 249,024
修繕費	82,225,826	103,746,524	△ 21,520,698
印刷製本費	1,220,815	874,408	346,407
新聞図書費	4,716,445	5,012,389	△ 295,944
燃料費	214,220	215,282	△ 1,062
光熱水費	271,207,240	257,484,169	13,723,071
賃借料	81,756,931	79,789,970	1,966,961
保険料	1,855,716	1,777,933	77,783
諸謝金	70,469,424	72,430,074	△ 1,960,650
租税公課	31,413,744	28,653,752	2,759,992
委託費	673,996,527	690,973,799	△ 16,977,272
支払負担金	68,348,044	65,306,079	3,041,965
支払助成金	191,737,997	203,317,219	△ 11,579,222
ライセンス料	129,360	178,486	△ 49,126
支払手数料	21,596,782	19,109,904	2,486,878
奨学金	12,050,000	12,200,000	△ 150,000
雑費	415,868	469,082	△ 53,214
貸倒損失	69,002	0	69,002

科目	当年度	前年度	増減
②管理費			
役員報酬	4,465,047	4,429,690	35,357
給与	7,343,716	6,781,631	562,085
福利厚生費	1,268,319	1,338,562	△ 70,243
会議費	76,356	68,463	7,893
渉外費	38,133	55,393	△ 17,260
旅費交通費	838,940	1,837,770	△ 998,830
通信運搬費	108,985	101,630	7,355
減価償却費	373,998	279,729	94,269
消耗品費	705,219	806,948	△ 101,729
印刷製本費	171,050	126,060	44,990
新聞図書費	125,824	91,127	34,697
燃料費	181,429	208,457	△ 27,028
光熱水費	86,732	81,978	4,754
賃借料	1,752,718	1,542,948	209,770
保険料	208,310	164,570	43,740
諸謝金	961,880	840,000	121,880
租税公課	15,766	27,928	△ 12,162
委託費	1,665,290	1,780,620	△ 115,330
支払負担金	719,175	843,395	△ 124,220
支払手数料	2,464,055	3,121,592	△ 657,537
雑費	9,258	4,392	4,866
経常費用計	1,968,964,148	1,992,844,580	△ 23,880,432
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,473,615	△ 37,798,802	27,325,187
当期経常増減額	△ 10,473,615	△ 37,798,802	27,325,187
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
過年度損益修正益			
過年度損益修正益	6,208	0	6,208
経常外収益計	6,208	0	6,208
(2) 経常外費用			
除却損失			
車両運搬具除却損	0	1	△ 1
什器備品除却損	219,096	956,225	△ 737,129
無形固定資産除却損	3	0	3
経常外費用計	219,099	956,226	△ 737,127
当期経常外増減額	△ 212,891	△ 956,226	743,335
税引前当期一般正味財産増減額	△ 10,686,506	△ 38,755,028	28,068,522
法人税・住民税及び事業税	851,500	1,168,300	△ 316,800
当期一般正味財産増減額	△ 11,538,006	△ 39,923,328	28,385,322
一般正味財産期首残高	1,061,858,975	1,101,782,303	△ 39,923,328
一般正味財産期末残高	1,050,320,969	1,061,858,975	△ 11,538,006
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取補助金等			
受取北九州市補助金	3,959,714	3,522,821	436,893
受取国庫補助金	236,280	0	236,280
受取寄付金			
受取寄付金	26,778,000	27,970,000	△ 1,192,000
基本財産受取利息	2,170,362	2,673,902	△ 503,540
一般正味財産への振替額	△ 55,310,426	△ 52,978,162	△ 2,332,264
当期指定正味財産増減額	△ 22,166,070	△ 18,811,439	△ 3,354,631
指定正味財産期首残高	789,286,296	808,097,735	△ 18,811,439
指定正味財産期末残高	767,120,226	789,286,296	△ 22,166,070
Ⅲ　正味財産期末残高	1,817,441,195	1,851,145,271	△ 33,704,076



■北九州学術研究都市

【公共交通機関の場合】 JR折尾駅バス停 ⟶ 市営バス・西鉄バス ⟶ 学研都市ひびきの ※所要時間約20分

北九州空港バス停 ⟶ 西鉄バス ⟶ JR朽網駅 ⟶ JR折尾駅 ⟶ 学研都市ひびきの

北九州空港バス停 ⟶ エアポートバス ⟶ JR小倉駅 ⟶ JR折尾駅 ⟶ 学研都市ひびきの

【車利用の場合】 北九州都市高速道路　黒崎出入口（黒崎・折尾出口下車）折尾方面へ ⟶ 学研都市ひびきの

※北九州都市高速道路黒崎出入口からの所要時間約20分

小倉都心 ⟶ 北九州都市高速道路 東田出入口 ⟶ 学研都市ひびきの

※小倉都心からの所用時間約30分

【北九州学術研究都市】

■中小企業支援センター

【公共交通機関の場合】 JR九州工大前駅下車　北側へ徒歩３分

【車利用の場合】 戸畑方面より

「新池三丁目交差点」より「若戸トンネル連絡道路」へ ⟶「若戸トンネル入口」を右折

小倉方面より　国道199号線「中原東交差点」を北進　最初の信号を左折し直進

【中小企業支援センター】

問い合わせ先一覧		
総務部	北九州学術研究都市内　産学連携センター1階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3111　FAX 093-695-3010 E-mail info@ksrp.or.jp
総務部（学術情報センター） 図書室	北九州学術研究都市内　学術情報センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-3	TEL 093-695-3150　FAX 093-695-3152 TEL 093-695-3151　FAX 093-695-3152
産学連携センター 産学連携部 GX推進部	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3006　FAX 093-695-3018 E-mail iac@ksrp.or.jp E-mail fais-ktqgx2050@ksrp.or.jp
自動車産業支援センター	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3685　FAX 093-695-3686 E-mail f-cara@ksrp.or.jp
半導体産業支援センター	北九州学術研究都市内　産学連携センター2階 〒808-0135 北九州市若松区ひびきの2-1	TEL 093-695-3007　FAX 093-695-3686 E-mail ksnet@ksrp.or.jp
ロボット・DX推進センター ロボット産業推進部 DX推進部 イノベーション推進部	北九州学術研究都市内　技術開発交流センター1階 〒808-0138 北九州市若松区ひびきの北8-1	TEL 093-695-3085　FAX 093-695-3525 TEL 093-695-3077　FAX 093-695-3667 E-mail robodx@ksrp.or.jp
中小企業支援センター	北九州テクノセンター1階 〒804-0003 北九州市戸畑区中原新町2-1	TEL 093-873-1430　FAX 093-873-1450 E-mail k_info@ksrp.or.jp